

行政視察報告書

令和 5 年 10 月 12 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 藏根 武

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	基地対策特別委員会 県外視察調査
2. 期 間	令和5年10月2日（月）～令和5年10月5日（木）
3. 視 察 先	(1)北海道千歳市 (2)北海道札幌市 (3)北海道北広島市 (4)北海道余市町 (5)北海道厚真町
4. 調査内容	基地から派生する諸問題を解決するため、自衛隊及び北海道防衛局の役割や防衛施設周辺の対策事業等を調査する。
5. 参加者	〔うるま市議会〕 議 長 比嘉 直人 〔基地対策特別委員会〕 委 員 長 藏根 武 副委員長 糸数 昌宗 委 員 池宮城 善伸 幸喜 勇 國場 正剛 高屋 優 天願 浩也 伊波 良明 伊波 洋 伊盛 サチ子 〔事務局〕 議事課長 金城 彰悟
6. 視察先 対応者	(1)北海道防衛局（局長、次長及び総務部長ほか数名） (2)千歳市（市長、副市長、総務文教常任委員ほか7名） (3)陸上自衛隊 東千歳駐屯地（司令及び第1高射特科団長ほか数名） (4)陸上自衛隊 北千歳駐屯地（第1特科団長ほか数名） (5)千歳市防災学習交流センター「そなえーる」（施設職員2名、北海道防衛局職員2名） (6)海上自衛隊 余市防備隊（司令ほか2名） (7)北広島市（市長及び議長ほか数名） (8)花の拠点「はなふる」及びC経路研修（北海道防衛局職員2名、樋口補佐官） (9)厚真町長表敬（町長ほか2名） (10)航空自衛隊 千歳基地（隊員数名）

7. 概要及び所見 ※写真など挿入可。

(1) 北海道防衛局（局長表敬及び研修）

- ・北海道防衛局、帯広防衛支局、千歳防衛事務所をもって組織を構成
- ・全国の自衛隊施設面積の約42%、演習場は約47%を占めている。
- ・自衛隊施設を米軍が共同使用（米軍専用施設は1つ）

【所見】

- ・沖縄の負担軽減の為に米軍訓練活動を受け入れている。
- ・まちづくり支援事業（防災学習交流施設等）
市民・道民の生活向上の為に必要なものが整備されている。
- ・防衛政策についての理解を得るため、地方自治体に対し部隊等の協力を得ながら、説明会を実施している。

(2) 千歳市（市長表敬及び基地等協議会関係者との懇談）

【所見】

- ・在日米軍再編に係る訓練移転先連絡協議会会長、北海道基地協議会会長を務める。
沖縄の基地負担軽減など関係自治体との調整など、沖縄の実態を把握して頂き、協力関係を構築していくことが必要である。

(3) 陸上自衛隊 東千歳駐屯地（第7師団装備品(戦車等)研修、司令表敬、第1高射特科団長表敬及び対空戦闘指揮統制システム等の研修）

- ・陸自最大の敷地面積を誇り、部隊の多くや陸自最大の普通科連隊や陸自最大級の高射特科団をはじめ多くが駐屯し北部方面隊の中核となっている。
- ・第7師団は、抑止力・対処力を高めるため、実践的な各種の訓練や国際平和協力活動など事態に即応できるような訓練も行っている。各種事態に一体的に対処できるよう各種訓練を通じて各関係機関と緊密な連携態勢を構築している。

【所見】

- ・有事の際の訓練に加え、大規模自然災害に対しても災害派遣などを行い民生の生活の安心・安定を図っていること。様々なイベント支援を通じて、地域の方々とも交流を行っている。自衛隊や隊員の役割や活動が地域の理解を得ている。

(4) 陸上自衛隊 北千歳駐屯地（装備品(88式地对艦誘導弾ミサイル)研修、第1特科団長表敬及び研修）

【所見】

- ・勝連分屯地に配備されるであろう地对艦誘導弾ミサイルの見学。自衛・防衛するためには必要とのことである。概要説明として、三段階の指令などを経て発射される。

(5) 千歳市防災学習交流センター「そなえーる」（視察研修及び体験(まちづくり支援事業))

【所見】

- ・市民（自主防災組織）などが連携し、防災学習や防災訓練等を実施することで、市民や防災関係機関の防災力を高めるとともに、防災関係機関に対する理解を深めることを目的とした施設である。課題は10年が過ぎ維持管理や地域住民の施設利用が減ったこと。近隣市町村の利用を促している。

(6)海上自衛隊 余市防備隊（視察研修(ミサイル艇くまたか)）

- ・小樽港に入港する艦艇の支援や沿岸地域・津軽海峡の防備、爆発物処理、災害派遣等を担当している。ミサイル艇わかたか、くまたかを配備している。余市防備隊は、主として北海道西部の日本海を担当している。

【所見】

- ・日本の北側を警備し、日本国や国民の安全を守っている。やはり国際情勢をみると必要不可欠な海上自衛隊の余市防備隊であることを認識した。

(7)北広島市（市長表敬及び北海道大演習場に関する懇談）

- ・自衛隊施設はないものの、全国で2番目に大きな北海道大演習場に隣接している。
- ・北海道大演習では、日米共同訓練、射撃訓練等様々な訓練が実施されている。
- ・沖縄の基地負担軽減にも関連する在沖の海兵隊が実施している訓練の一部は北大演習でも実施。

(8)花の拠点「はなふる」（民生安定施設助成事業）及びC経路研修（北広島市役所から厚真町役場へ移動する間に、駐車場や車内等から概要の説明・現状の確認）

(9)厚真町長表敬（平成30年胆振東部地震における自衛隊の救援状況などを確認）

【所見】

- ・平成30年胆振東部地震時の厚真町における自衛隊の災害支援活動の状況を確認することができた。一早く災害に対する支援を自衛隊が実施したことで街の普及や復興が進み、人命救助にも大きく活躍してくれた。

(10)航空自衛隊 千歳基地（視察研修及び救難隊研修）

【所見】

- ・救難隊によるパラシュート降下訓練の実施、装備品の説明が聞けた。うるま市でも米軍によるパラシュート降下訓練はあるが目的やパラシュートの種類が違うことを知った。救難隊は事故や遭難などに活動をするが米軍によるパラシュート降下訓練海上に降り、実務訓練で両訓練は安全を考慮したものである。

【所見】

- ・今回の北海道研修では、うるま市に類似する自治体や自衛隊基地を視察しました。自衛隊に対する住民の理解を知ることができた。北海道では農地開拓を支援した軍人や自衛隊に対する感情が良いところである。また、近年人口減少が進む中で自衛隊に勤務する方々が配置されたことにより、大幅な人口減が進んでいない。しかし、北海道の自衛隊削減問題に対して、関係機関や市町村が自衛隊存続を求めていることも確認できた。自衛隊員がいることで災害時の動員や経済効果があることも知ることができた。災害訓練の目的に応じて、市町村が主催する防災訓練等にも参加してもらうことで密な連携がとれること。コミュニケーション、普段からの顔合わせの必要性も感じることができた。

行政視察報告書

令和 5 年 10 月 6 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 糸 数 昌 宗

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	基地対策特別委員会 県外視察調査
2. 期 間	令和5年10月2日（月）～令和5年10月5日（木）
3. 視 察 先	(1)北海道千歳市 (2)北海道札幌市 (3)北海道北広島市 (4)北海道余市町 (5)北海道厚真町
4. 調査内容	基地から派生する諸問題を解決するため、自衛隊及び北海道防衛局の役割や防衛施設周辺の対策事業等を調査する。
5. 参加者	〔うるま市議会〕 議 長 比嘉 直人 〔基地対策特別委員会〕 委員 長 藏根 武 副委員 長 糸数 昌宗 委 員 池宮城 善伸 幸喜 勇 國場 正剛 高屋 優 天願 浩也 伊波 良明 伊波 洋 伊盛 サチ子 〔事務局〕 議事課長 金城 彰悟
6. 視察先 対応者	(1)北海道防衛局（局長、次長及び総務部長ほか数名） (2)千歳市（市長、副市長、総務文教常任委員ほか7名） (3)陸上自衛隊 東千歳駐屯地（司令及び第1高射特科団長ほか数名） (4)陸上自衛隊 北千歳駐屯地（第1特科団長ほか数名） (5)千歳市防災学習交流センター「そなえーる」（施設職員2名、北海道防衛局職員2名） (6)海上自衛隊 余市防備隊（司令ほか2名） (7)北広島市（市長及び議長ほか数名） (8)花の拠点「はなふる」及びC経路研修（北海道防衛局職員2名、樋口補佐官） (9)厚真町長表敬（町長ほか2名） (10)航空自衛隊 千歳基地（隊員数名）

事態発生時の情報収集、連絡調整など。

防衛施設と周辺地域との調和を図るための施策

自衛隊や在日米軍は、防衛施設周辺の皆様の暮らしに配慮しながら活動しています。

しかしながら、航空機の騒音、演習場での訓練などで、どうしても周辺地域に影響を及ぼす場合があります。

そこで、「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律(昭和49年法律第101号。以下「環境整備法」という。)」等に基づき、次の施策を行い、防衛施設周辺地域との調和を図ることに努めています。

【騒音対策に関する施策】

→〔学校等の防音工事の助成〕

自衛隊等の航空機の離着陸等の頻繁な実施により生ずる音響を防止又は軽減するために、学校・病院等の施設の防音工事を行う者に対し、その費用の助成を行っています。

→〔住宅防音工事の助成〕

→〔建物等の移転補償等〕

→〔緑地帯の整備〕

自衛隊等の航空機の離陸・着陸等の頻繁な実施により生ずる音響の影響度を、その音響の強度、その音響の発生の回数及び時刻等を考慮して、環境整備法第4条から第6条までの規定に基づき、防衛大臣が第一種区域、第二種区域及び第三種区域として区域の指定を行い、それぞれの区域に応じた施策を行っています。

【障害防止工事の助成】・・・(環境整備法第3条第1項)

自衛隊等の行為により生ずる騒音以外の障害を防止又は軽減するため、農業用施設、河川等の施設に必要な工事を行う者に対し、その費用の助成を行っています。

【民生安定施設の助成】・・・(環境整備法第8条)

防衛施設の設置又は運用等により生ずる障害を緩和するため、地方公共団体が防衛施設周辺の民生安定に寄与する施設の整備について必要な措置を採る場合に助成を行っています。

【特定防衛施設周辺整備調整交付金の交付】・・・(環境整備法第9条)

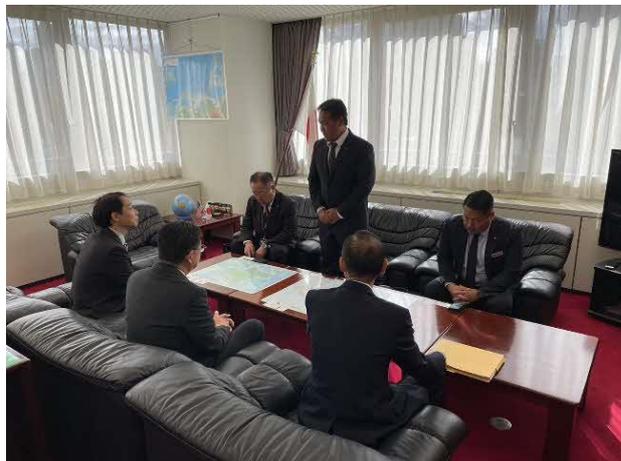
特定防衛施設関連市町村に対し公共用施設の整備を行うため周辺整備調整交付金の交付に関する業務を行っています。

【再編交付金の交付】

駐留軍等の再編の円滑な実施に関する特別措置法(平成19年法律第67号)に基づき、再編関連特定周辺市町村に対し、再編関連特別事業に係る経費に充てていただくため再編交付金の交付に関する業務を行っています。

局長 宮崎 順 (みやざき じゅん)
次長 藤井 真 (ふじい まこと)
総務部長 本間 克哉 (ほんま かつや)

議長 比嘉 直人
委員長 藏根 武
副委員長 糸数昌宗



(2)千歳市 (市長表敬及び基地等協議会関係者との懇談)



横田隆一市長表敬

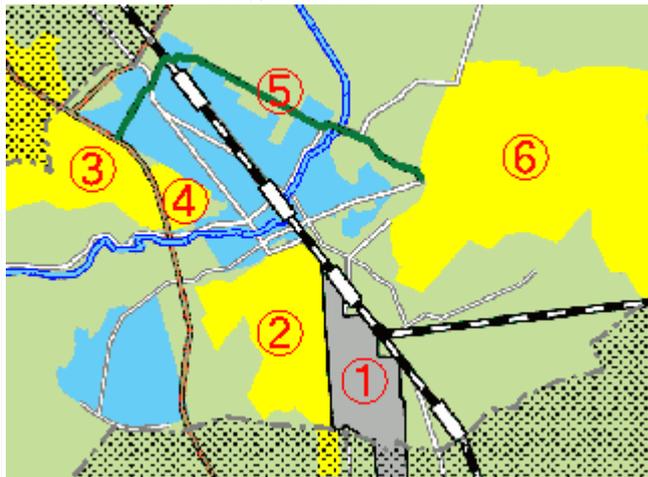


基地等協議会関係者との懇談

基地政策課の仕事

- ・ 防衛施設周辺問題の総合調整に関すること
- ・ 航空機による騒音軽減対策に関すること
- ・ 住宅防音工事の相談及び連絡調整に関すること

千歳市周辺の防衛施設等



①新千歳空港（国管理空港）

②航空自衛隊千歳基地

③北海道大演習場（千歳地区）

④陸上自衛隊北千歳駐屯地

⑤C経路【（注）通称】

⑥陸上自衛隊東千歳駐屯地及び北海道大演習場（東千歳地区）

注) 千歳市道祝梅根志越線他3路線及び国道337号からなる延長約10キロメートルの公道で、陸上自衛隊東千歳駐屯地と北海道大演習場（千歳地区）を結ぶ装軌車の通行経路で、通称『C経路』と呼ばれています。

(3)陸上自衛隊 東千歳駐屯地（第7師団装備品(戦車等)研修、司令表敬、第1高射特科団長表敬及び対空戦闘指揮統制システム等の研修)



【概要】

駐屯地司令は、第7師団副師団長が兼務する。

最寄の演習場は駐屯地に隣接する北海道大演習場（東千歳地区）別名東千歳演習場、また小規模ではあるが駒里演習場がある。

総敷地面積約590万m²という陸自最大の敷地面積を誇り、師団の隷下部隊の多くや陸自最大の普通科連隊をはじめ、陸自最大級の高射特科団をはじめする北部方面隊直轄部隊の多くが駐屯し、北部方面隊の中核をなす駐屯地となっている。

石狩平野の中心点にあり、南は苫小牧市、北は札幌市、或いは石狩川沿いに道央を臨み、東は国道274号線を越えて十勝平野に広がる、北海道防衛の要衝にあたる。

【部隊】

第7師団司令部、第11普通科連隊、第7特科連隊、第7高射特科連隊（一部）、第7後方支援連隊、第7施設大隊、第7通信大隊、第7偵察隊、第7化学防護隊、第7音楽隊、第1高射特科団、第1高射特科群、北部方面混成団、第1陸曹教育隊、第52普通科連隊（一部）、第1電子隊、北部方面輸送隊、北部方面指揮所訓練支援隊、東千歳駐屯地業務隊、北部方面後方支援隊（第101高射直接支援大隊）、第313基地通信中隊、第324会計隊

第1高射特科団長表敬・概要説明



【沿革】

昭和47年3月 東千歳駐屯地において、我が国最初の高射特科団として誕生

昭和47年10月 団創隊初のホーク部隊実射訓練

昭和50年7月 米軍施設の引継ぎに伴う星条旗降下式（現在の団本部）

昭和51年8月 「第1高射団」から「第1高射特科団」に団の称号が変更

昭和54年12月 団本部ホークダミー除幕式

昭和60年7月 「第301無線誘導機隊」が下志津より移駐「第302無線誘導機隊」が廃止

平成元年3月 第301無線誘導機隊改編 / 第101無人偵察機隊編成完結

平成3年8月 団創隊20周年の記念として / 新シンボルミサイル作成

平成4年3月 新シンボルミサイル完成

平成12年3月 後方支援体制改編に伴う部隊改編

平成20年10月 ホーク部隊実射訓練において日本初の斉射

平成31年3月 第101無人偵察機隊廃止及び / 第101無人標的機隊新編

(4)陸上自衛隊 北千歳駐屯地 (装備品(88式地对艦誘導弾ミサイル)研修、第1特科団長表敬及び研修)

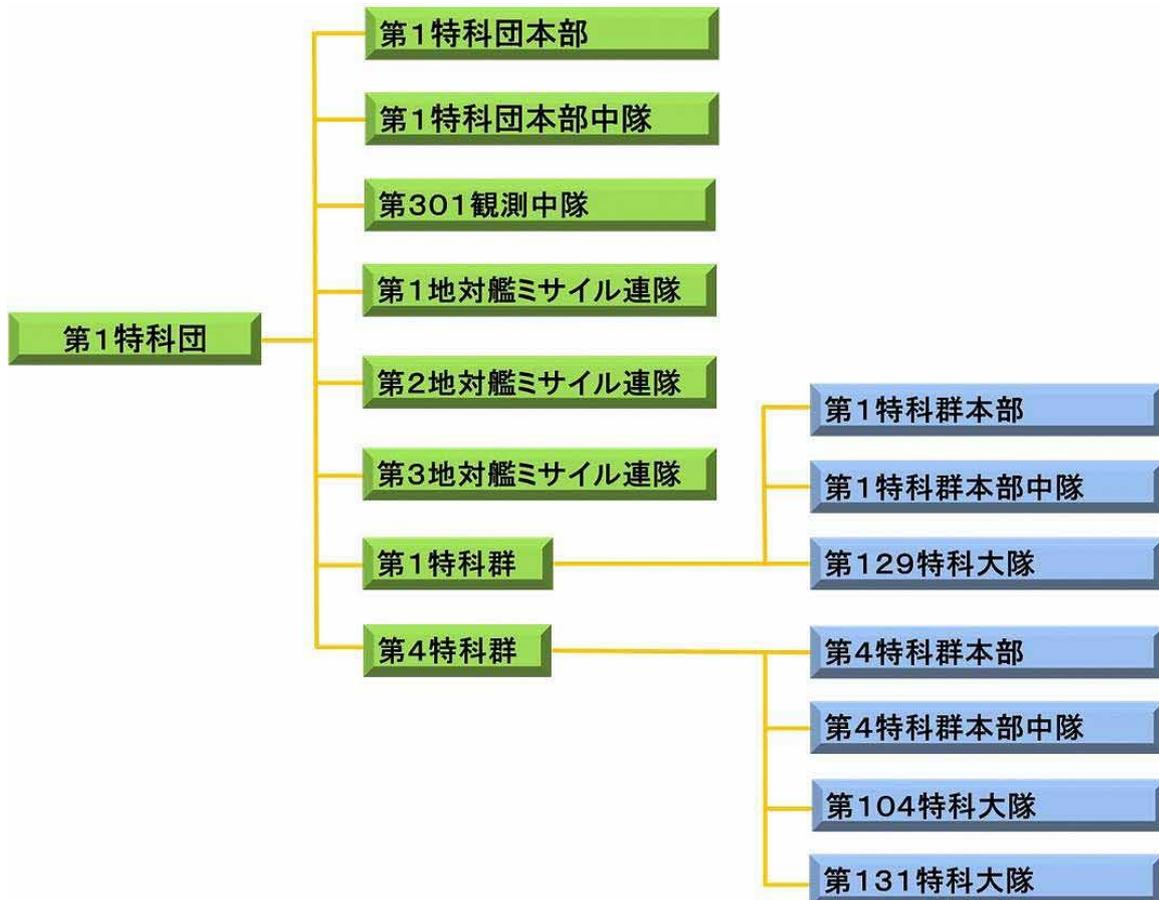


【概要】

第1特科団は、昭和27年10月15日、保安庁訓令第5号により北部方面特科団として、その本部は千葉県二宮町の保安隊特科学校で誕生しました。

その後、12月までの間、独立特科大隊が全国各地において相次いで編成され、同年暮れから翌28年4月に亘り、逐次札幌、千歳、函館に移駐を行い、同年5月には第301観測中隊が、また、昭和29年1月には第1特科団航空隊が新たに編成されました。

昭和29年7月1日、保安隊は自衛隊と名称が変更され、北部方面特科団は第1特科団へと生まれ変わりました。



(5)千歳市防災学習交流センター「そなえーる」 (視察研修及び体験(まちづくり支援事業))



千歳市防災学習交流センター『そなえーる』とは、災害を「学ぶ・体験する・備える」をキーワードに、いろいろな災害の擬似体験をしながら、防災に関する知識や災害が発生したときの行動を学ぶことができます。また、防災講座や救急講習、自主防災組織の訓練など防災学習の拠点施設としても活用するそうです。

展示施設

- ・災害学習コーナー
- ・地震体験コーナー
- ・通報体験コーナー
- ・予防実験コーナー
- ・防災情報検索コーナー
- ・煙避難体験コーナー
- ・避難器具体験コーナー

ガラス張りで、充満する煙の様子を見ながら煙の特性を学べる煙避難体験コーナー。床から突き出たクッション付きポールにつかまって、揺れを直に感じられる地震体験コーナーなどは、一般的な防災体験館・防災センターとは違うなかなかの出来です。特に、高層建物からの避難器具を実際に体験できる避難器具体験コーナーは、普通の防災体験館・防災センターにはなく、マンション住民や、中高層ビルなどにお勤めの方には、是非とも体験される事をお薦めします。

(6)海上自衛隊 余市防備隊 (視察研修(ミサイル艇くまたか))



余市防備隊は昭和46年7月15日に北方の守りとして開隊しました。
主要任務として、「沿岸海域の安全確保」を担っています。
現在は、本部と第1ミサイル艇隊（わかたか、くまたか）で編成されています。

ミサイル艇の紹介



825 わかたか



827 くまたか

主要要目

排水量：200 t
主要寸法：（長さ×幅×深さ×喫水）
50×8.4×4.2×1.7 m
馬力：16200 ps
速力：44 kt（時速約79 km）
乗員：約21名

(7)北広島市（市長表敬及び北海道大演習場に関する懇談）



（挨拶）上野正三 市長



（挨拶）比嘉直人 議長

【概要】

陸上自衛隊では矢臼別演習場に次ぐ国内二位の規模の演習場である。地理特性上各地区に分断されているため、規模としては地区毎に戦車や装甲車等の実弾射撃訓練が可の小規模演習地区及び射撃訓練可の中規模演習地区とに分類されているが、全地区を

合わせると総面積9600haにも及ぶ広大な演習場である。部隊においては「北大演（ほくだいえん）」とも称するそうです。

(8)花の拠点「はなふる」(民生安定施設助成事業)及びC経路研修(北広島市役所から厚真町役場へ移動する間に、駐車場や車内等から概要の説明・現状の確認)



北海道防衛局 民生安定施設の助成

飛行場、演習場などがあることによって周辺住民の皆さんのくらしに影響を及ぼす場合があります。その場合には、市町村などが行う公園、道路、ごみ処理施設等の生活関連施設や、農業、漁業施設などの事業経営の安定に寄与する施設の整備に対して助成を行います。

基本施策のひとつである「観光資源の魅力向上」については、アクションプランとして「花観光の推進」や「花の観光拠点の整備」が掲げられ、施策の実現に向けて平成28年11月には「花の拠点基本計画(以下「基本計画」という。)」を、平成30年3月には「花の拠点基本設計(以下「基本設計」という。)」を取りまとめ、平成30年度から順次施設の整備に着手し、一部施設を除き令和2年11月11日に花の拠点(愛称:はなふる)として供用を開始したそうです。

(9)厚真町長表敬(平成30年胆振東部地震における自衛隊の救援状況などを確認)



(挨拶) 宮坂尚市朗 町長



(挨拶) 比嘉直人 議長

地震で景色が一変した胆振東部

平成30年9月6日午前3時7分に発生した北海道胆振東部地震で、厚真町では北海道で初めて最大震度7を観測し、3,000万立方メートルの土砂が崩落するなど各地で甚大な被害が発生しました。震源に近い厚真町、安平町、むかわ町を中心に、多数の住家が全半壊し、1万6,000人以上の住民が避難生活を強いられました。

農地への土砂流入や用水路の破損など農林関係の被害額は1,145億円に上り、苫小牧港では液状化による沈下などが発生、高規格幹線道路の日高自動車道に段差が生じ、一級河川鶴川で堤防に亀裂が入るなど、重要インフラにも広く影響が及んだそうです。

被災自治体と情報を共有し緊急復旧へ

被災状況を早期に把握し、緊急車両の通行ルート確保などインフラの早期復旧につなげるため、北海道開発局は、災害対策用ヘリを出動させ上空から調査。その情報はリアルタイムで被災自治体にも提供されました。

自治体と連携し、救急車や自衛隊などの緊急車両を通行可能にするため、必要最低限の倒木処理や路面の段差解消などを行う「道路啓開」を実施。被災当日から地元建設業者とともに道路通行止め区間の解消、河道に流れ込んだ土砂や流木の撤去などの緊急復旧工事も進められました。

被災地に寄り添う支援も北海道開発局の重要な使命です。被災自治体の支援のため「TEC-FORCE（テック・フォース、緊急災害対策派遣隊）」を派遣し、被害状況の取りまとめや応急対策、また、復旧に向けた技術支援を行いました。最大震度を観測した厚真町は、特に土砂災害が深刻でした。北海道知事からの要請を受け、北海道開発局では、厚真川水系の土砂災害復旧・復興に取り組むことになりました。

大規模な河道閉塞が発生した日高幌内川では緊急的に水路を整備してから、閉塞部を掘り下げる対策を推進したほか、チケッペ川と東和川には、堆積した土砂の流出を止める砂防堰堤などを建設しました。

また、地域産業を支援する一環としては、平成31年4月にオープンした道の駅「あびらD51ステーション」の駐車場整備などにも取り組んだそうです。

★厚真町では、防災マネジャー（元自衛官）を配置

10 航空自衛隊 千歳基地（視察研修及び救難隊研修）



北海道の空の玄関口として広く知られる新千歳空港に隣接する千歳基地の歴史は古く、大正15年にまで遡る。村民自らがこの場所を開墾し、手作りで飛行場を造成したのが始まりである。そのような経緯もあり地域住民の基地に対する理解は深い。今も地域とより良い関係で共存する千歳基地で、厳しい自然と向き合い任務に従事する。

一年の3分の2以上はドライスーツを着用しているとのことで、スーツの点検や手入れは欠かせない。メディックにとって装備品とは任務を遂行するのに必要不可欠な物であると同時に自らの生命を守る大切なパートナーでもある。スーツやインナーは体温低下を防ぎ、シットハーネスは航空機と自身を繋ぐ。全ての道具がそれぞれの役割を持って存在していることをここでは強く感じられた。

今回の視察研修で多くのことを学ばせていただきましたこと、心より感謝申し上げます。特に、陸海空の司令や団長の方々と専門的な知識と経験に触れる機会を持つことができ、私にとって非常に貴重なものでした。これからも学んだことを生かし、更なるスキルの習得や成長に繋げていき、うるま市の発展に寄与していきたいと思っております。

行政視察報告書

令和 5 年 10 月 17 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 池宮城 善伸

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	基地対策特別委員会 県外視察調査
2. 期 間	令和5年10月2日（月）～令和5年10月5日（木）
3. 視 察 先	(1)北海道千歳市 (2)北海道札幌市 (3)北海道北広島市 (4)北海道余市町 (5)北海道厚真町
4. 調査内容	基地から派生する諸問題を解決するため、自衛隊及び北海道防衛局の役割や防衛施設周辺の対策事業等を調査する。
5. 参加者	〔うるま市議会〕 議 長 比嘉 直人 〔基地対策特別委員会〕 委員 長 藏根 武 副委員 長 糸数 昌宗 委 員 池宮城 善伸 幸喜 勇 國場 正剛 高屋 優 天願 浩也 伊波 良明 伊波 洋 伊盛 サチ子 〔事務局〕 議事課長 金城 彰悟
6. 視察先 対応者	(1)北海道防衛局（局長、次長及び総務部長ほか数名） (2)千歳市（市長、副市長、総務文教常任委員ほか7名） (3)陸上自衛隊 東千歳駐屯地（司令及び第1高射特科団長ほか数名） (4)陸上自衛隊 北千歳駐屯地（第1特科団長ほか数名） (5)千歳市防災学習交流センター「そなえーる」（施設職員2名、北海道防衛局職員2名） (6)海上自衛隊 余市防備隊（司令ほか2名） (7)北広島市（市長及び議長ほか数名） (8)花の拠点「はなふる」及びC経路研修（北海道防衛局職員2名、樋口補佐官） (9)厚真町長表敬（町長ほか2名） (10)航空自衛隊 千歳基地（隊員数名）

7. 概要及び所見 ※写真など挿入可。

(1) 北海道防衛局（研修）

北海道における自衛隊員の人数や米軍施設等もある説明を受けました。

米軍との共同使用施設が18か所、専用施設が1か所あるとの説明、私なりには想像はしていましたが、北海道には北方領土問題があり米軍施設を常駐させることはロシアを刺激しないようにしていると感じました。

広大な面積をもつ北海道、全国の42%を占めている自衛隊施設は陸・海・空とそれぞれの部隊で演習ができる施設が多く、平成8年に沖縄県における米軍の県道104号線越え実弾射撃訓練も受け入れ、沖縄県の負担軽減に協力頂いていると思いました。

(2) 千歳市（基地等協議会関係者との懇談）

市長より千歳市における財政状況についての説明がありました。

千歳市には、約9,200名の自衛隊員やその家族が暮らしていて、市においても大きな税収になっているとの説明を受け、防衛施設が安定収入になっていると感じました。

また、市長より自衛隊との共存・共栄で発展し互いに協力体制や地域とのコミュニティ形成ができてきているとのこと。防衛施設が安定収入になっていると感じました。

委員より、意見の中で抗議や反対運動などの連絡はあるかの問いに、ほとんどいないということに大変驚くとともに、自衛隊の存在が地域に凄く根付いていると感じました災害時における協力体制の説明も受け、平成24年に千歳市と災害協定を結び、去った9月9日には防災訓練を実施し約900名の参加者が訓練に参加したとの説明があり災害時には、地元自治体が派遣隊員の家族のために窓口の設置や子供の一時預かり保育など支援体制もしっかり取り組んでいるとのこと。

災害発生時から復旧まで、時間を要することから自衛隊の役割や災害派遣時における家族の支援は大事な事だと痛感しました。

突然に発生する大地震、想定を超える被害、収容能力を上回る避難者。災害が多い日本において、自衛隊の災害派遣における対応は地方公共団体などとの連携は必要不可欠だと思いました。

(3)陸上自衛隊 東千歳駐屯地（第7師団装備品(戦車等)研修、第1高射特科団及び対空戦闘指揮統制システム等の研修）

全国部隊方面についての今後の編制、装備品などについての説明がありました。特に驚いたのは、女性自衛官の多さにはびっくりするとともに、活躍の場が広がっていると感じました。

陸上自衛隊最大の駐屯地であり、隊員が約5,000名いるとの説明。雪が多い時にはボランティアで除雪作業などおこなっていると伺いました。

対空戦闘指揮統制システムは、レーダーや哨戒機などで情報をいち早く集め、その情報を地上の部隊に連絡し訓練を行っているとのことでした。

(4)陸上自衛隊 北千歳駐屯地（装備品(88式地対艦誘導弾ミサイル)研修及び第1特科団研修)

防衛大臣直轄の部隊を要する北千歳基地、広大な面積があることから、冬場には一部市民にスキー会場として一般開放していることは驚きました。

今後、陸上自衛隊勝連分屯地にも配備される地対艦ミサイルの主要装備品や地対艦部隊の説明を聞き、防衛システムの連携が大事だということを痛感しました。

特に感心したことは、地元の大学生が主体となり北部隊夏まつりを開催、約2,500名の来場者が訪れたとお聞きし地域密着が普段から交流・対話ができているからこそ自衛隊員への理解が浸透していると思いました。

(5)千歳市防災学習交流センター「そなえーる」（視察研修及び体験(まちづくり支援事業)

地震と火災の防災体験館そなえーるの施設において千歳市で過去にあった胆振東部地震(震度7)の被害状況や地震に伴う、停電やライフラインへの影響など過去に経験したことの説明を受け、毎年総合防災訓練も行っているとのこと。

これまでの主な災害事例の映像をみながら施設長より説明を受け、後半には、全国の幾つかの大規模地震の疑似体験のほか、地震の震度を実際に体験し身近に感じることで、地震に対する意識が凄く体感でき、本市においても今後どう活かしていくか考えていきたいと思いました。

また、地震以外でも火災時に発生する煙やコンセント発火による火災、各種避難設備の見学を行いました。

(6)海上自衛隊 余市防備隊（視察研修(ミサイル艇くまたか)

北海道はロシアに近いこともあり、昨今のロシアによるウクライナ侵攻があり緊張感をもって任務に当たっているとのこと。

司令官より、余市町との防災協定を締結し、防災訓練も実施しているとの説明があり、余市町は人口も少ないこともあり職場体験なども受け入れているとのこと。

本市には海上自衛隊沖縄基地隊もあり、災害時には日頃からの協力体制の構築が大事だと感じました。

(7)北広島市（北海道大演習場に関する懇談)

市長より説明があり、演習場が近いために市民から苦情などもあるが大きな被害などの報告はないが、騒音対策として測定機を設け対策をおこなっている。

演習場周辺には、防音工事などで対策をしながら住民の理解を得ている。

特定防衛施設交付金約1億2千万円収入があることで、安定した街づくりができることもあり、近年では転入により人口も増えているとのこと。

(8)花の拠点「はなふる」(民生安定施設助成事業)及びC経路研修(北広島市役所から厚真町役場に移動する間に、駐車場や車内等から現状を確認)

花の拠点 はなふるを視察しすごい広大な敷地だと感じました。

一年を通して四季折々の花や植物、紅葉が楽しめる場所、グルメを味わえる場所や特産品物の直売所があり平日の間も関わらず多くの方が訪れていました。広い敷地を活かし、自然を利活用した良い施設だと感じました。また施設内には川が流れており、今回サケが川をのぼる様子がみられ、すごく自然と調和した施設だと感じました。

また、車中泊専用施設もあり大規模災害や武力攻撃事態が発生した際には一時避難場所としても可能できると説明を受けました。

(9)厚真町(平成30年胆振東部地震における自衛隊の救援状況などを確認)

町長より以前におきた地震の被害状況。住宅の全壊、半壊など多く家屋が被害を受け、さらには道路・電気・水道被害が市民生活へ影響を与えたとのこと、被害総額が約800億円、復興に向けた事業費が約1,000億円と伺った。

発生から約3時間後に陸上自衛隊の初動対処部隊が到着、更に3時間後本隊が到着し諸活動を展開したとききました。

地震を体験したことを踏まえ、新たに自衛隊出身者を雇用し自衛隊員との協力関係の構築に努めているとの説明がありました。

突然に発生する大地震、本市においても専門性のある方を採用し備えたほうが大事だと思いました。

(10)航空自衛隊 千歳基地(視察研修及び救難隊研修)

大正15年に当時の千歳村民の無償の労力提供により着陸場を作りあげたとのこと。民間と共同で使用しているが、二つの飛行場とその周辺の空域の航空交通管制業務を部隊が担当していることにはお驚きました。委員からの質問の中でスクランブル発信の回数など聞いたところ、116回との回答があり、沖縄県の航空自衛隊那覇基地のスクランブル発信の回数を聞いたところ、令和3年404件、令和4年581件、令和5年現在は652件と年々増加傾向にあるとの説明でした。

また、パラシュート降下訓練時の装備品の種類や安全性などの説明をしてもらい確認することができた。

本市で実施されている米軍パラシュート降下訓練について、今後も調査、研究していきたい。

うるま市議会議員 伊 波 洋

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1, 名 称	基地対策特別委員会 県外視察調査
2, 期 間	令和5年10月2日(月)~令和5年10月5日(木)
3, 視 察 先	(1)北海道千歳市 (2)北海道札幌市 (3)北海道北広島市 (4)北海道余市町 (5)北海道厚真町
4, 調査内容	基地から派生する諸問題を解決するため、自衛隊及び北海道防衛局の役割や防衛施設周辺の対策事業等を調査する。
5, 参加者	[うるま市議会] 議 長 比嘉 直人 [基地対策特別委員会] 委員長 蔵根 武、 副委員長 糸数 昌宗 委 員 池宮城 善伸、幸喜 勇、国場 正剛、高屋 優、天願 浩也 伊波 良明、伊波 洋、伊盛サチ子、 [事務局] 金城 彰悟
6, 対 応 先 対 応 者	(1)北海道防衛局(局長、次長及び総務部長他数名) (2)千歳市(市長、副市長、総務文教常任委員長ほか7名) (3)陸上自衛隊東千歳駐屯地(司令及び第1高射特科団長他数名) (4)陸上自衛隊北千歳駐屯地(第1特科団長ほか数名) (5)千歳市防災学習センター「そなえーる」(施設職員2名、北海道防衛局職員2名) (6)海上自衛隊余市防備隊(司令ほか2名) (7)北広島市(市長及び議長ほか数名) (8)花の拠点「はなふる」及びC経路研修(北海道防衛局職員2名、樋口補佐官) (9)厚真町長表敬(町長ほか2名) (10)航空自衛隊千歳基地(隊員数名)

7, 概要及び所見 *写真など記入可。

(1) 北海道防衛局 (局長表敬及び研修)

*北海道防衛局は防衛行政全般に関する北海道における拠点として、防衛省の出先機関として平成19年9月に設立。我が国の防衛政策について地域の皆様の御理解・御協力を得るための努力を行い、防衛相と北海道民との懸け橋となることを目指しています。

主な業務は①防衛政策についての理解を得るための情報提供や説明の実施。②自衛隊や米軍が使用する防衛施設の建設。③防衛施設等の用地取得・管理、訓練に伴う障害の軽減や損失に対する補償等、その業務は多岐にわたります。

帯広支局、千歳防衛事務局下部組織で道内に陸上自衛隊5カ所、海上自衛隊2カ所、航空自衛隊1カ所と防衛装備庁、大中の演習場4カ所も網羅している。

(2) 千歳市(市長表敬及び基地等協議会関係者との懇談)

*千歳市には、陸上自衛隊東千歳・北千歳駐屯地、航空自衛隊千歳基地に各部隊が所在し、千歳市の人口の25%にあたる自衛官とその家族が居住して、町内会活動、スポーツ・文化交流団体での活動を通して、市民生活と大きな関わりを持っており、千歳市の年間予算・財政に大きな貢献をしていることが挙げられた。

また、北方の守りや災害発生時の対応に不安が生じるほか、地域経済やまちづくりにも深刻な影響を及ぼすことから、千歳市では、自衛隊の現体制の維持、強化に努め、自衛隊が有する機能と人材などを生かして共存共栄を進めると報告があった。

(3) 陸上自衛隊東千歳駐屯地(第7師団装備品(戦車等)研修、司令表敬、第1高射特科団長表敬及び対空戦闘指揮統制システム等の研修)

*戦車等の装備品の間地かでの視察は初めてで、大演習場で実際に使用しているので圧倒された。平成8年の特別行動委員会(SACO)の最終報告で、沖縄の県道104号線封鎖した実弾射撃訓練が北海道・矢臼別演習場に移転され、日米合同演習していることの意義深さの解釈が出来た。

統制システムの構成は、指揮統制装置、搜索・標定レーダー装置、射撃統制装置、中継装置、ミサイル発射機、予備ミサイル・装填装置構成されるいわゆるリエゾン機構の高度な技術で、現在、指揮統制装置1基、搜索・標定レーダー装置(中継装置1基)に1×2基、射撃統制装置(射撃管制装置1基)に1-4基、中継装置1-12基、ミサイル発射機搭載車1-16基、予備ミサイル・装填装置搭載車1-16が配備されていることでの管理には感嘆した。

(4)陸上自衛隊北千歳駐屯地(装備品(88式地对艦誘導弾ミサイル)研修、第1特科団長表敬及び研修

*航空自衛隊向けの空対艦ミサイルとして開発されたが、これをもとに開発されたのが88式地对艦誘導弾ミサイルで、昭和63年からこれまでに全国に102基は配備されている。日本製の88式地对艦誘導弾ミサイルで、射程距離は約、150~200kmと推定されるが、機密事項で公表できないとの事である。実際には国内での演習で実施はできないとの事であった。その装備の真価が分からないのが気になった。

現在、問題となっている沖縄県へのミサイル配備計画等もあって、現物を前にした視察研修できたことは有意義で良かった。沖縄県へのミサイル配備計画はあくまで、専守防衛の為だけになってほしいのが本音である。

(5)千歳市防災学習センター「そなえーる」(視察研修及び体験・まちづくり支援事業)

*千歳市防災学習センター「そなえーる」は、2010年にオープンした主に地震と火災の防災体験館、防災訓練広場に隣接した立派な施設であり、全国から地元での大地震の8種類を再現地震することが体験学習できるほか、全国では数少ない高層建物からの非難に用いる段降機や救助袋を体験できる避難器具体験コーナーもあります。大地震の8種類を再現地震と暗闇通路での煙中避難訓練を体験できたのはいい経験だったが、視察に訪れた際に来館者が居なかったのが気になった。

防災学習、千歳市の防災への取り組みや災害の歴史、自助・共助・公助、家庭の防災対策等が学べるゾーンと地震体験、予防実験、防火・防災用品の紹介、119番通報体験等の体験ゾーンに分かれて学習できる施設は羨ましい施設だった。あくまで防災のための施設であるが防衛局の助成施設は必要であると考えさせられた。

(6)海上自衛隊余市防備隊(視察研修・ミサイル艇くまたか)

*余市防備隊は、最北の艦艇部隊を擁する部隊で唯一の開場自衛隊の部隊。80名の小規模な海上自衛隊余市防備隊で825「わかたか」・827「くまたか」の2隻のミサイル艇で400km余の北海道西岸部を防備している。昭和45年基地建設着工、魚雷艇、第1ミサイル艇、第2ミサイル艇と移行し、今日に至っている。沖縄の尖閣諸島のような事案はないとの事だった。射程距離400kmとの事だったが、ここでもミサイルの演習実施はしたことがないとのことであった。

(7)北広島市(市長及び北海道大演習場に関する懇談)

*北広島市に自衛隊施設等はないが、大演習場に隣接しているために騒音被害による「NHK」放送受信料の補助として、市には年間予算に対して防衛局から事業補助金の支援を受けている。

(8)花の拠点「はなふる」の「民生安定施設助成事業」及びC経路研修「北広島市役所から厚真町役場へ移動する間に、駐車場や車内等から概要の説明・現状の確認」

*花の拠点「はなふる」は、広大な敷地に「ガーデンエリア」、道と川の駅「花ロードえにわ」、「かのな」、えにわファミリーガーデン「りりあ」、恵庭観光案内所、RVパーク「花ロードえにわ」、電気自動車用電源を備えた施設であります。

「ガーデンエリア」は北海道を代表する花や樹木の美しさを鑑賞し、遊びながら自然の豊かさを楽しめる施設であります。道と川の駅「花ロードえにわ」は、年間100万人の人が訪れる人気スポットであり、地元ならではの特産品コーナー、恵庭食材等を使ったレストラン、手作りパン、TEAスタンド、コスメ雑貨店等がお迎えする施設となっているそうです。

「かのな」は、生産者の顔が見える直売所。えにわファミリーガーデン「りりあ」は、こどもの遊び空間。RVパーク「花ロードえにわ」は、24時間営業で無料シャワー室、キッチン等完備された施設で、RV車などの車中泊を希望する人気の施設である。

折角の研修であったが、わずかな時間の滞在、視察に終わったのが残念でした。

(9)厚真町長表敬「平成30年胆振東部地震における自衛隊の救援状況などを確認」

*厚真町の平成30年の北海道胆振東部地震における自衛隊の救援状況は人命救助、道路啓開、給水支援、入浴支援、給食支援、物資輸送で多大な活動状況を行っていただいたとの報告がありました。災害時の自衛隊の救難支援等は評価されるものである。

(10)航空自衛隊千歳基地(視察研修及び救難隊研修)

*千歳基地は北海道千歳市にある航空自衛隊の基地である。民間機も含めて航空管制は、航空自衛隊が一元的に行っている。日本の北端を担当する第2航空団が置かれており、航空自衛隊にとっては、かつてのソビエト連邦、継承国のロシアと対峙する最前線の基地である。

今回は、視察研修は救難隊をメインに研修をした。千歳救難隊は航空自衛隊や他の自衛隊機が墜落した際、U-125AやUH-60Jで緊急発進して搭乗員の搜索救助活動(航空救難)を実施する。

また、民間機事故や消防や海上保安庁などの救難組織と連携して、災害派遣として山岳や海上の救難者の捜索救出活動、離島・へき地の急患輸送なども行っている。今回、救難隊の視察研修できたことは良かった。事案に対する装備は完璧で「凄い」の一言。

視察研修の所見

今回の視察研修は沖縄防衛局に対応していただきましたが、視察研修の日程が過密スケジュールで分刻みだったことが大変でした。意見交換の時間も短く、もっとゆとりある研修であってほしいと感じた。

北海道での北海道防衛局(自衛隊施設)は、地元にとっては必要不可欠なものであり、有意義なものであると感じさせられたが、米軍施設(基地)が混在している沖縄での沖縄防衛局(自衛隊施設)はどうかを考えさせられた研修だった。沖縄周辺での有事が危惧されている最中での、沖縄防衛局が整備計画している自衛隊施設、ミサイルの配備計画等については今後も注視をして行きたい。

ま と め

先の大戦で我が国唯一の地上戦のあった沖縄にとっては、一番は平和外交による有事にならないことである。

行政視察報告書

令和 5 年 10 月 10 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 伊波 良明

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	基地対策特別委員会 県外視察調査
2. 期 間	令和 5 年 10 月 2 日 (月) ~ 令和 5 年 10 月 5 日 (木)
3. 視 察 先	(1)北海道千歳市 (2)北海道札幌市 (3)北海道北広島市 (4)北海道余市町 (5)北海道厚真町
4. 調査内容	基地から派生する諸問題を解決するため、自衛隊及び北海道防衛局の役割や防衛施設周辺の対策事業等を調査する。
5. 参加者	〔うるま市議会〕 議 長 比嘉 直人 〔基地対策特別委員会〕 委 員 長 藏根 武 副委員長 糸数 昌宗 委 員 池宮城 善伸 幸喜 勇 國場 正剛 高屋 優 天願 浩也 伊波 良明 伊波 洋 伊盛 サチ子 〔事務局〕 議事課長 金城 彰悟
6. 視察先 対応者	(1)北海道防衛局 (局長、次長及び総務部長ほか数名) (2)千歳市 (市長、副市長、総務文教常任委員ほか 7 名) (3)陸上自衛隊 東千歳駐屯地 (司令及び第 1 高射特科団長ほか数名) (4)陸上自衛隊 北千歳駐屯地 (第 1 特科団長ほか数名) (5)千歳市防災学習交流センター「そなえーる」 (施設職員 2 名、北海道

防衛局職員 2 名)
(6)海上自衛隊 余市防備隊 (司令ほか 2 名)
(7)北広島市 (市長及び議長ほか数名)
(8)花の拠点「はなふる」及びC経路研修 (北海道防衛局職員 2 名、樋口補佐官)
(9)厚真町長表敬 (町長ほか 2 名)
(10)航空自衛隊 千歳基地 (隊員数名)

7. 概要及び所見 ※写真など挿入可。

(1)北海道防衛局 (局長表敬及び研修)

令和 4 年 10 月の人口推計によると、約 4 万人減の 514 万人と全国平均の 0.44%を大きく上回る 0.88%の減少率である。少子高齢化のなか死亡者数が出生者数を上回る自然減が加速している。転入者が転出者を上回る社会増ではあるが、ここ 30 年間で約 50 万人が減少しているとのことである。

****自衛隊駐屯地等基地や演習場の存在が人口問題やまちの存続に大きく影響しているものと思われる。

北海道防衛局の組織は総務、企画、調達、管理部の 4 部制で、約 200 人 (沖縄県も同様の 4 部制で約 500 人) で構成され、ほかに防衛施設地方審議会を設置している。

北海道の面積は全国の約 22%を占めているが、自衛隊施設面積 (約 460 km²) は全国の約 42%で、演習場に限っては約 47%もある。施設面積の約 96%は陸自施設である。

駐留軍施設面積は 18 施設約 345 km²でそのうち、17 施設約 340 km²は自衛隊施設を米軍が共同で使用している。

防衛施設としては、矢臼別演習場、北海道大演習場、上富良野演習場、然別演習場、鬼志別演習場約 355 km²などのほか千歳飛行場 (第 2 航空団司令部) や北海道補給処白老弾薬支処がある。

****沖縄県においても米軍専用施設の基地面積割合が全国の 70%を占めていることは決して看過できないが、基地の移設によって他自治体の人口問題解消の手だてになることで双方の解決の糸口になることを期待したい。

沖縄県キャンプ・ハンセンを縦断する県道 104 号線越え実弾射撃訓練は、平成 9 年度に矢臼別演習場を含む本土の 5 演習場に分散、実施されている。また、平成 18 年度以降、嘉手納基地の航空機訓練の移転も実施されている。さらに、沖縄県の負担軽減のため、オスプレイ等の訓練の移転も実施されている。そのような中、基地周辺対策も令和 4 年度の実績額で民生安定や調整交付金、住宅防音、障害防止など約 130 億円の補助額である。また、防衛施設建設工事予算額は、令和 5 年度は約 352 億円と急激に増加している。

****県内米軍基地専用施設の移設も考えながら、自衛隊との共用使用等のことも検討すべき問題だと思う。自立した観光産業や経済の発展を通しアジアの玄関口として平和な沖縄を維持できるよう解決方法を模索しなければならない。

(2)千歳市（市長表敬及び基地等協議会関係者との懇談）

令和2年国勢調査での人口は97,950人で、5年前と比較して2,302人増えた。道内179市町村のうち、増加したのは12市町村で札幌市に次ぐ第2位の増加数で、増加率では第1位である。市内には2つの陸上自衛隊駐屯地と航空自衛隊基地がある。隊員と家族等を含めると人口の約25%を占め、町内会活動やスポーツ、文化団体の活動などを通して、マンパワーを発揮して市民生活と大きな関わり合いを持っている。

****自衛隊員OBと家族を含めると約30%の人口を占めるらしい。そのことは、千歳市が子育てしやすい住み良い環境であるということにはほかならない。ただし、市として就労支援は行っていないとのことである。沖縄県内においてはたとえ基地には反対であっても隊員や家族とは「いちゃりばちょうでー」のちむぐるを大事にしたい。

(3)陸上自衛隊 東千歳駐屯地（第7師団装備品(戦車等)研修、司令表敬、第1高射特科団長表敬及び対空戦闘指揮統制システム等の研修）

主要装備品は戦車、装甲戦闘車、装甲人員輸送車、自走りゅう弾砲、自走高射機関砲などの多種多様な装甲車を主体に装備している。第7師団は抑止力や対処力を高めるため各種の訓練を行っている。また、国際平和協力活動など、あらゆる事態に即応できるような訓練と、各種事態に一体的に対処できるよう自治体、消防、警察など各関連機関と緊密な連携態勢も構築している。さらに、大規模地震、火山噴火、豪雨等の天災地変やその他の災害に対し、災害派遣活動を行い、民生の安定を図っている。他にも、創立記念行事の開催や地域の様々なイベント支援を通じて、地域との交流も図っている。

****第7師団が陸上自衛隊最強の抑止力や対処力として道内の防衛、警備のみならず、他方面隊の防衛遂行も行っていることや、大規模災害対処や海外での国際平和協力活動などに対応できるよう常日頃からの訓練など自衛隊の職務に感謝の思いを強くもった。

(4)陸上自衛隊 北千歳駐屯地（装備品(88式地对艦誘導弾ミサイル)研修、第1特科団長表敬及び研修）

主要装備品は、地对艦誘導弾、多連装ロケットシステム、戦車、地对空誘導弾、対空火力等を装備している。主要施設はスキー訓練場など。他に教育訓練研究部、基地通信部隊。地区警務隊や千歳・恵庭地域援護センターなどがある。他にも、駐屯地開庁記念行事の開催やコンサート、北部隊夏まつりなどイベントも多く開催されている。

****地対艦誘導弾ミサイルなど国産品が多いことに驚愕した。また、地域に就職を希望する退職自衛官への就職の援助を行うなど、地域への関わりを大事にしている姿勢が見えた。

(5)千歳市防災学習交流センター「そなえーる」(視察研修及び体験(まちづくり支援事業))

市街地の三方に東千歳駐屯地や千歳基地、北千歳駐屯地があるため装軌車両、主に戦車が頻繁に通行する延長 10km の公道「C 経路」が通っており、東千歳駐屯地と北千歳駐屯地、その奥に続く北海道第演習場を結んでいるが、一部住宅地を通ることから騒音・振動による被害の声が寄せられた。市の防災対策の推進や自主防災組織の充実などの観点から住民要望や住民懇話会で防災学習交流施設の整備が決定された。

10km のうち対象区域は 5 km で優先区間は「そなえーる」予定地の沿道 2 km である。

そして平成 17 年 12 月に補助事業として採択され、平成 22 年 4 月にオープンした。

総事業費は約 21 億円で民生安定事業を活用し、国庫補助率を 75%、残りは起債と市費である。総面積は約 8.4ha で A ゾーンは「そなえーる」をはじめ、訓練広場、ロープ訓練塔、備蓄倉庫、駐車場そして常設ヘリポートある。B ゾーンは雨水調整池と消火体験や救出体験を学ぶ広場。C ゾーンは野営生活訓練広場で 150 人がキャンプできる。管理、運営は市直轄で 8~9 名体制である。利用者数は 13 年間で 483,705 人、年平均 37,208 人となる。今後の課題は防災面以外でも様々な分野で施設や各種講座の活用ができるよう、施設運営を工夫していくこと。また、設備の更新など予算確保が大きな課題である。

****東日本大震災や胆振東部地震、熊本地震など過去に起きた大地震の揺れを実際に体験できたことはよかった。施設の近くに道の駅「サーモンパーク千歳」や市民病院、千歳駅、空港などがあり利用しやすい立地にあると思う。また、災害時の災害対策の拠点として使用されるとのことだが、駐車場が約 200 台分確保されていることや、雨水調整池、野営広場、常設のヘリポートなどがあり大いに期待できそうでした。

(6)海上自衛隊 余市防備隊(視察研修(ミサイル艇くまたか))

余市防備隊は青森県むつ市の大湊地方隊に所属し、主に北海道西部の日本海を担当している。主要装備はミサイル艇わかたかとミサイル艇くまたかの 2 隻で、特徴は機関がガスタービン 3 基、ウォータージェット推進装置 3 基あり速力が 44 ノット(時速 80km/h) であること。乗員は 22 名。主要兵装は 62 口径 76 ミリ速射砲×1、艦対艦ミサイルシステム×1 式、12.7 ミリ重機関銃×2 の以上。

****港の潮位の差が 40cm 程度の良港であり、出港には準備等や規定により約 2 時間を要するが、緊急時にはおおむね 1 時間以内とのことである。また、速力を推進している大きな理由が船体全部がアルミニウムで軽量化したとのことである。

(7)北広島市（市長表敬及び北海道大演習場に関する懇談）

令和5年9月現在の人口は56,950人で札幌市の東に位置する。今年3月、北海道日本ハムファイターズの新球場を含めたエリア「北海道ボールパーク F ビレッジ」が誕生した。新球場は日本ハムが600億円を拠出した自前の球場で約32haという広大な敷地の中で、自然と共存する次世代ライブエンターテインメントや心身を育むウェルネスソリューション、文化交流が活発な街づくりを目指す、新しいクリエイティブなコミュニティースペースだということです。

****自衛隊施設はないが北海道大演習場に隣接しているため、防衛補助金もあり演習場近くの住宅地は防音工事も行っている。4年度より人口は約600人減少しているが、こどもの数は増えているらしい。北広島市でも死亡者数が出生者数を上回る自然減が加速している中、市内には約1,000名の隊員と家族が住んでいることが救いであるかのよう聞こえた。また、議員22名中19名の防衛議員連盟で年2回防衛省へ要請に行くとのことでした。

(8)花の拠点「はなふる」（民生安定施設助成事業）及びC経路研修（北広島市役所から厚真町役場に移動する間に、駐車場や車内等から概要の説明・現状の確認）

北広島と千歳市の間に位置する恵庭市に2020年11月にオープンした花のまち恵庭の新たなシンボルである。北海道大演習場周辺公園設置助成事業（65%補助）を活用した。来訪者が年間100万人を超える道と川の駅の隣接地を「花の拠点」として、7つのテーマガーデンからなるガーデンエリア、こどもの遊び場、水の遊び場、キャンピングカー専用施設、宿泊施設、フードコーナー、カフェ、集会場などがある。

****園内全域でWi-Fiの利用が可能だったり、バーベキューを楽しんだり、申請すればキッチンカーも出店できるなど、こどもから大人まで楽しめそうです。

スターバックスもあるが、こどもの遊び施設「りりあ」など有料施設もある。

(9)厚真町長表敬（平成30年胆振東部地震における自衛隊の救援状況などを確認）

平成30年9月6日午前3時7分に発生した胆振東部地震は北海道初の最大震度7を観測するなど甚大な被害をもたらした。道内の死者44人中37人が厚真町で、家屋の全壊が222棟、半壊が308棟、一部損壊が1,045棟、地震の二次災害として山腹で多数の土砂崩れがあり、幹線道路が通行不能となった。そのような中、発生から約3時間後の午前6時頃に陸上自衛隊の初動対処部隊25名が到着、さらに3時間後の9時頃本隊780名が到着し救出活動、道路啓開（緊急車両等が通行できる最低限の瓦礫処理）及び生活支援（給食、給水、入浴等）を展開実施した。10月6日まで延べ14,359人（陸自、空自、海自）が人命救助等に活躍した。

****災害時に頼りになる自衛隊OBを防災担当マネージャーとして、平成30年4月より採用したことが功を奏した形になった。町長のファインプレーである。採用後の自衛隊との救助活動の連絡体制強化や情報共有が的確に行われた結果、多くの生命が助かったことに繋がったものと思う。本市でも自衛隊OBを防災担当マネージャーとして早めの採用を検討すべきだと思う。

(10)航空自衛隊 千歳基地（視察研修及び救難隊研修）

主要装備としては F-15、政府専用機（ボーイング 777）、U-125 救難機、PAC 3 である。千歳空港は航空自衛隊基地であり民間機も含めて航空管制は航空自衛隊が一元的に行っている。

****救難用ヘリと救難隊の装備を確認できた。緊急患者空輸や海難救助の出動が多く、洋上訓練が中心なため低い海水温では常にドライスーツを着用している。

また、山岳救助の要請は極めて少ないとのことだが、常に万全を期して待機しているとのことだ。熊やサメへの遭遇も警戒しなければならないとのことでした。その他、アクアラング、降下用のパラシュートやスキー板、ストレッチャーなど大型の装備品も多いし重たいし、自衛隊員の凄さに感服しました。

以上

行政視察報告書

令和 5 年 10 月 17 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 伊盛 サチ子

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	基地対策特別委員会 県外視察調査
2. 期 間	令和5年10月2日（月）～令和5年10月5日（木）
3. 視 察 先	(1)北海道千歳市 (2)北海道札幌市 (3)北海道北広島市 (4)北海道余市町 (5)北海道厚真町
4. 調査内容	基地から派生する諸問題を解決するため、自衛隊及び北海道防衛局の役割や防衛施設周辺の対策事業等を調査する。
5. 参加者	〔うるま市議会〕 議 長 比嘉 直人 〔基地対策特別委員会〕 委員 長 藏根 武 副委員 長 糸数 昌宗 委 員 池宮城 善伸 幸喜 勇 國場 正剛 高屋 優 天願 浩也 伊波 良明 伊波 洋 伊盛 サチ子 〔事務局〕 議事課長 金城 彰悟
6. 視察先 対応者	(1)北海道防衛局（局長、次長及び総務部長ほか数名） (2)千歳市（市長、副市長、総務文教常任委員ほか7名） (3)陸上自衛隊 東千歳駐屯地（司令及び第1高射特科団長ほか数名） (4)陸上自衛隊 北千歳駐屯地（第1特科団長ほか数名） (5)千歳市防災学習交流センター「そなえーる」（施設職員2名、北海道防衛局職員2名） (6)海上自衛隊 余市防備隊（司令ほか2名） (7)北広島市（市長及び議長ほか数名） (8)花の拠点「はなふる」及びC経路研修（北海道防衛局職員2名、樋口補佐官） (9)厚真町長表敬（町長ほか2名） (10)航空自衛隊 千歳基地（隊員数名）

7. 概要及び所見 ※写真など挿入可。

令和5年10月3日(火)

(1) 北海道防衛局（局長表敬及び研修）

北海道防衛局では道内の自衛隊基地に関する周辺基地事業まちづくり事業（民生安定補助金）（調整交付金）、令和5年度の北海道内の全体予算枠の概要について説明を受ける。

北海道の自衛隊施設の面積は、うるま市と比較にならないほどの広大な面積を有し、特に陸上自衛隊の施設に関しては約96%を占めている。海上自衛隊約0.2%、航空自衛隊約3.9%である。

また全国の自衛隊施設の42%は、北海道内に集中していることでも認識を新たにするものであった。演習場でも沖縄と違い、広大な訓練施設では実弾射撃訓練が実施されている。道内には駐留軍施設は18施設あり（沖縄は米軍基地が集中している）そのうち米軍関連は1か所のみで共同使用である。

また、北海道には矢臼別演習場を含む5施設の自衛隊の演習場がある。沖縄の負担軽減を目的に平成9年から令和4年度まで実弾射撃訓練もこれまで20回実施されてきた。実弾を使った演習ともなると、その訓練に伴う被害の苦情は、現状では少ない状況ではあると聞くが、防衛局は地元関係への協力要請など地元から分散実施の理解は得られたとの考えである。毎年全国規模で行われている米軍と自衛隊の共同訓練も実施されていることから、地域住民への騒音被害は影響を及ぼしているのではと想定される。うるま市でも特に米軍飛行（オスプレイ、ジェット機、ヘリ）が日常的に騒音を響かせ飛行している。夜間飛行や低空飛行も増えている。苦情はうるま市当局とおして沖縄防衛局にも市民の苦情は届けられている。

北海道内では、米軍機より自衛隊機から派生する騒音被害の把握についても騒音測定器の実態調査に基づいた検証を行い、騒音被害に対する具体的な解決策に向けた確認の必要性を感じているところであった。

防衛施設の建設工事に関する令和元年から令和5年の建設工事の予算額の推移の資料によると令和4年北海道局全体の予算は約99億円。本局約82億円、支局約17億円に対し、令和5年度は北海道局全体の予算は約352億円。本局約329億円、支局約23億円。陸上自衛隊が約90%の予算を占めていることに言及している。国の軍事政策に対する防衛費の予算増加ということが示されている。

沖縄本島（勝連分屯地を含め）全国規模による陸上自衛隊の建設工事、改修工事、装備品等々との関連による機能強化が図られようとする状況で勝連分屯地のミサイル配備計画は市民の不安を払拭されない中で進められていくことへの危機感を地域住民への説明が求められています。

(2) 千歳市（市長表敬及び基地等協議会関係者との懇談）

歴史的背景により、冷戦時代に旧ソ連（現ロシア）への抑止力確保のため、地元が自衛隊基地を誘致してきた経緯があり、これまで自衛隊と共に発展を続けてきたことも大きく影響し、自衛隊の体制強化を求めていく市の方針がある。ちなみに現在陸上自衛隊東千歳駐屯地、北千歳駐屯地、航空自衛隊千歳基地の3か所が所在するところとなる。千歳市の人口約94,000人に対し、自衛隊関係者が約9,200人と自衛隊の割合の高いことも特徴的なところである。自衛隊のまちとして位置づけられるほど、日頃から地域活動への参加、協力支援、また災害時の人命救助など様々な活動をとおり、地域住民との共存共栄を図っていきながら貢献していることで、まちづくりに関わってきていること。さらに千歳市長を先頭に61市町村による北海道基地協議会の組織

を立ち上げ、周辺自治体208自治体が中心になって、自衛隊削減時の取組、要請行動を毎年防衛省や自衛隊関係者に陳情を行うなど組織を挙げて自衛隊を削減しないよう存続を求める取組を進めている。

千歳市の財源において自衛隊関係の収入は経済とも関連していることからすれば、自衛隊の削減は経済やまちづくりとしても大きな影響を及ぼし、さらにこの30年間で人口減少が急速に進んできたことへの危機感もあり、自衛隊の存続については自衛隊に対する市民感情の抵抗は薄く、これからも自衛隊と共存するまちづくりをアピールしながら市の発展につなげていくため、市長自ら先頭と立って活動を推進しているところは、千歳市の特徴的なところでもあるのだろう。

(3)陸上自衛隊 東千歳駐屯地（第7師団装備品(戦車等)研修、司令表敬、第1高射特科団長表敬及び対空戦闘指揮統制システム等の研修)

(4)陸上自衛隊 北千歳駐屯地（装備品(88式地对艦誘導弾ミサイル)研修、第1特科団長表敬及び研修)

第1特科団には地对艦ミサイル連隊部隊が所在し、駐屯地内には30年前から装備品として88式地对艦誘導弾ミサイルが配備されている。勝連分屯地に配備される予定の12式地对艦誘導弾ミサイルは、88式よりも開発が進められている射程距離は200kmとなるものである。実際に88式移動式の大型車両に搭載されたミサイル発射車両を目の当たりにし、勝連分屯地に配備されることを想定した場合のことを考えると攻撃の対象になる可能性が十分にあるのではと、改めてミサイル配備計画に対する危機感、不安が強くなってきた。

地对艦誘導弾ミサイルは洋上から侵攻してくる敵を撃破することを目的とされ、その実際の訓練はアメリカでしか行われていないとのこと。現に車両に搭載されたミサイルは長さ約5メートル、ミサイルの筒が6個設置されており、車両は3人体制での行動となる。ミサイル機能には多連装ロケットシステムが整備され、すべてレーダー装置による統制化の下で有事になった場合はミサイルを発射することになる。射程距離やミサイルロケット弾頭の保管に関する件には詳細な説明を避けた。

また2023年末に勝連分屯地のミサイル連隊本部、本部管理中隊を新編成することに関しても、それぞれの部隊の役割、任務に携わっていることから、勝連分屯地の新編成がどのような部隊配備とされるかは分からないとのことである。

また説明の中では、地对艦誘導弾ミサイルは移動式の車両になっていることは、攻撃の対象になった際は、危険を回避する意味でも一か所の場所にとどまることなく、移動を繰り返しながら活動をする。それは何を意味するか、移動を繰り返すことによって、さらなる市民への被害は想定されることになると考えるが、この件に対してもミサイルを配備するということは、相手に対する抑止力につながるものであり、市民の安全安心を確保することにつながるとの説明に終始をしていた。

(5)千歳市防災学習交流センター「そなえーる」（視察研修及び体験(まちづくり支援事業))

基地が所在する自治体に対して、住民の生活または事業活動が阻害される場合、民生安定施設助成事業（8条予算）、ジェット機が離着陸する飛行場、射撃等の演習場などの対応（調整交付金9条予算）が活用できる支援事業とされている。千歳市防災学習交流センターも防衛民生安定事業の一貫としたまちづくり支援事業として、平成17年に補助事業として約21億円の総事業費が当てられ、災害時には災害対応の拠点として活用できる施設が整備されたところである。

その施設概要は、①防災学習交流センター（そなえーる）は、災害を学ぶ・体験する・備えるをテーマに防災学習の意識を高めることを目的とされている。実際に体感で感じることができる災害装置を備え、実体験を学ぶことができる施設でもある。②学びの広場には、災害時の消火体験や救出体験をとおり、自助・共助を学ぶ広場もある。③防災の森には、キャンプ利用を含め災害時には拠点となり市民の避難場所として確保される。

この施設の周辺には災害時には身をもって行動に移していく内容が充実し、施設を活用することで、災害に対する意識を改めて問い直すきっかけにもなった。施設の概要及び実体験をとおり施設の重要性を認識することができました。

令和5年10月4日（水）

(6)海上自衛隊 余市防備隊（視察研修（ミサイル艇くまたか））

余市防備隊はS46年7月に開設され、海上自衛隊で一番北にある艦艇基地である。第1ミサイル艇隊のミサイル艇は2隻を運用しており隊員の構成は80人体制である。任務とするところは沿岸海域の安全確保を扱っており、調査・研究や民生協力活動など行っている。特に地域活動では花火大会の支援、お祭り等の行事への参加、またコミュニティによる学校等の交流活動を図る等の地域住民への支援強化に取り組んでいるとのこと。

余市防備隊（海上自衛隊）ミサイル艇くまたかが棧橋に停泊しており、その見学行った。説明によるとくまたかは主に宗谷岬においてロシア海軍の監視活動や情報収集を主な任務としている。昨今は中国の艦艇がみられるようになり、状況の変化に対応を行っているとのこと。ミサイル艇くまたかを近くで見るとは、はじめてであった。先端にステルス性の75mm砲弾が設置され、後方にはミサイル誘導弾・長さ5メートルの4筒が装備されている。このミサイル艇の誘導弾も日本で訓練することはできないため、アメリカの訓練場で実施訓練を行っているとのこと。

ホワイトビーチにも海上自衛隊の共同使用棧橋がある。しかし余市防備隊のミサイル艇はその区域が活動範囲であるため沖縄にわかたか・くまたかが停泊する状況にないとのことである。

(7)北広島市（市長表敬及び北海道大演習場に関する懇談）

広大な射撃演習場があるため射撃訓練による騒音が発生していることや、また射撃訓練時による誤射事故も過去に起きている。人的被害はないものの周辺には民間地域があることで、安全確保の対応がなされているのか危惧するところである。バスの中から演習場を確認することができたが、射撃訓練による山沿いの木々は演習による影響で焼かれた様子の光景となっている。それほど射撃訓練による衝撃は大きいのであろう。

地域周辺には、騒音測定器の設置、防音対策事業の整備も行われているが、北広島市は日常的に騒音の実態調査を行い苦情のある際には、防衛局への申し入れ等も行っている。演習に対する住民への影響は、頻繁に起こっているわけではない。射撃演習場の施設があることにより、特定防衛施設周辺整備調整交付金が年間1億2千万円交付されている。

(8)花の拠点「はなふる」（民生安定施設助成事業）及びC経路研修（北広島市役所から厚真町役場へ移動する間に、駐車場や車内等から概要の説明・現状の確認）

(9)厚真町長表敬（平成30年胆振東部地震における自衛隊の救援状況などを確認）

厚真町は平成30年9月に北海道胆振東部地震で震度7の大規模地震が発生し、土砂崩れにより人的被害で37名の方が命を失った。すでに5年が経過しているが、当時は陸上自衛隊、航空自衛隊、海上自衛隊等延べ1万4,000人の人々が支援に駆けつけるなど、昼夜問わず協力体制を構築し支援に当たった。特に自衛隊の支援活動においては、人命救助をはじめ、道路整備（道路啓開）、生活支援（給食、給水、入浴等）、インフラ設備関連への対応で大きな力を発揮し、災害発生直後から被災者の対応、連携による、これまでの自衛隊員の経験が生かされる支援力である。

大規模災害を経験したことにより多くの課題の気づきもあった。災害に備えた協力体制は日頃からの連携が重要だ。厚真町は「大規模災害時等の情報共有要領及び生活救助等に関する協定書」を陸上自衛隊第7師団第7特科連隊(東千歳)と協定を締結。その内容には災害に係る連絡体制の強化、情報の収集、救助活動のための地域の使用、応急的な生活救助等を定め、人命救助活動、生活救助活動に資するものとされ、協定を結ぶことにより、具体的に行動支援活動の迅速が図られること。被害を最小限にすることにもつながっていくことになる。

また防災訓練も重要な取組として不可欠なものである。災害を想定した防災訓練の取組も年間実施されている現状にあるが、訓練に関しても自主防災組織が中心となり、町民や近隣の人たちが連携した支援の取組を含め、また児童生徒による学校教育現場での日頃の防災意識を高めることなど、災害の恐ろしさや自分の命は自分で守ることの大切さを学ぶことで、防災に関する意識の醸成を図る取組は、ますます創意工夫が求められていくことになる。

(10)航空自衛隊 千歳基地（視察研修及び救難隊研修）

航空自衛隊千歳基地には、救難隊として活動に取り組んでいる救難隊の部隊が配置されている。その支援活動として海上保安庁より救難支援要請がきた際には、出動に向けて活動する任務となる。救難隊は主に海上や山林沿いの対応が難しい場所の調査や捜索に加わり救出支援や救難支援活動を任務としている。時には急病人の緊急救護支援（ドクターヘリ）等、医師や看護師が同乗する際に、連携して人命救助に取り組むなど日頃の訓練と装備品の点検は重要な役割・任務でもある。隊員は厳しい訓練を積み重ね現場の状況確認をはじめ、救難隊としての的確な判断力が求められることから訓練のレベルの高さが伺われた。

訓練のその一つにパラシュート降下訓練の状況確認をすることができた。自衛隊の救難機は通常高度3,000メートルを飛行することになっている。しかしパラシュートで降下する際には、高度を1,000メートルまで下げた時点から降下となる。自衛隊のパラシュートはパラグライダー的な形のものとなっており、降下する時には手元で操作を行い、確実な目標地点に降りることが求められている。訓練の積み重ねの成果が救難隊の活動に生かされることになる。

ちなみに米軍のパラシュート降下訓練の状況はどうか、米軍は一定の高度ではなく様々な訓練内容を想定した上で実施する。降下する場合も高度の位置は自衛隊のように一定の高度を保っているわけではない。パラシュートの機能の違い、安全対策の観点からも自衛隊と米軍のパラシュート降下訓練の違いの検証は必要ではないかと実感するものでした。

行政視察報告書

令和5年10月12日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 幸喜 勇

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	基地対策特別委員会 県外視察調査
2. 期 間	令和5年10月2日（月）～令和5年10月5日（木）
3. 視 察 先	(1)北海道千歳市 (2)北海道札幌市 (3)北海道北広島市 (4)北海道余市町 (5)北海道厚真町
4. 調査内容	基地から派生する諸問題を解決するため、自衛隊及び北海道防衛局の役割や防衛施設周辺の対策事業等を調査する。
5. 参加者	〔うるま市議会〕 議 長 比嘉 直人 〔基地対策特別委員会〕 委 員 長 藏根 武 副委員長 糸数 昌宗 委 員 池宮城 善伸 幸喜 勇 國場 正剛 高屋 優 天願 浩也 伊波 良明 伊波 洋 伊盛 サチ子 〔事務局〕 議事課長 金城 彰悟
6. 視察先 対応者	(1)北海道防衛局（局長、次長及び総務部長ほか数名） (2)千歳市（市長、副市長、総務文教常任委員ほか7名） (3)陸上自衛隊 東千歳駐屯地（司令及び第1高射特科団長ほか数名） (4)陸上自衛隊 北千歳駐屯地（第1特科団長ほか数名） (5)千歳市防災学習交流センター「そなえーる」（施設職員2名、北海道防衛局職員2名） (6)海上自衛隊 余市防備隊（司令ほか2名） (7)北広島市（市長及び議長ほか数名） (8)花の拠点「はなふる」及びC経路研修（北海道防衛局職員2名、樋口補佐官） (9)厚真町長表敬（町長ほか2名） (10)航空自衛隊 千歳基地（隊員数名）

7. 概要及び所見 ※写真など挿入可。

(1)北海道防衛局 局長表敬及び研修

◆北海道の自衛隊施設面積の内訳

- ・北海道の自衛隊施設面積(約460km²)は、全国の自衛隊施設面積(約1098km²)の約42%を占めている。その内、陸上自衛隊施設が約96%(約442km²)を占めている。演習場に限っては全国の約47%を占めている。



◆北海道の駐留軍施設面積(共同使用施設を含む)

- ・18施設で約345km²で、その内、約340km²については自衛隊施設を米軍が共同使用。

◆防衛施設所在市町村

- ・全道市町村数179のうち、防衛施設所在市町村数は76。
(内訳) 市⇒35のうち25 町⇒129のうち50 村⇒15のうち1

◆防衛局の主な業務

①広く防衛政策についての理解を得るための施策

- ・防衛白書の説明や配布は181件。
(内訳) 北海道知事1件、北海道内全市町村首長179件、北海道公安委員会委員長1件
- ・防衛問題セミナーの開催(平成19年度から令和5.9月までに全道各地で46回、ミニセミナーは平成22年度から令和元年度までに5回開催)。

②訓練の分散・実施、訓練移転

- ・平成9年度中にキャンプ・ハンセンを縦断する沖縄県道104号線を封鎖して実施された実弾射撃訓練が矢白別演習場を含む本土の5演習場において分散・実施。
- ・在日米軍飛行場の周辺地域における訓練活動の影響を軽減するため、平成18年以降、米軍の嘉手納、三沢及び岩国飛行場から自衛隊の千歳、三沢、百里、小松、築城及び新田原基地への航空機の訓練移転を実施。
- ・訓練活動に伴う沖縄の負担を軽減するため、現普天間飛行場に所在するオスプレイ等の訓練活動を沖縄県外に移転。

③防衛施設の安定的な運用を図るための施策(基地周辺対策)

- ・障害防止工事の助成⇒道路改修(戦車道)、河川改修。
- ・民生安定施設の助成⇒除雪施設、まちづくり支援事業(生涯学習センター)。

④防衛施設の建設工事

- ・令和5年度予算は北海道局全体で約352億円(本局約329億円、支局約23億円)。

◆主要事案

- ・千歳試験場(装備庁)⇒大型エンジン試験場の整備。
- ・稚内分屯基地(空自)⇒電波測定装置受入施設の整備。
- ・北海道大演習場(陸自)⇒盤尻通過設備整備。

⑤自衛隊の装備品等の調達

- ・誘導武器類、需品類(繊維製品等)。

⑥防衛施設の安定的な運用を図るための施策(漁業への補償、防衛施設の取得)

- ・漁業補償⇒令和5年度実施計画額は、静内対空射撃上水域は3億8,219万5千円、天塩訓練海域は190万円。
- ・(陸)滝川駐屯地滝川演習場用地の取得は令和5年度約50万m²取得予定。

⑦米軍に係る事故等の対応、調達業務

- ・特別調達資金で調達して提供する間接調達とレンタカーなどの直接調達の支援。

(2)千歳市 市長表敬及び基地等協議会関係者との懇談

千歳市では人口の25%が自衛官とその家族で占めていて、地域経済やまちづくりを支える大きな役割になっており、千歳市の総合計画にも自衛隊と連携していくことを明記している。

23人中19人が防衛議員連盟で活動している。



(3)陸上自衛隊 東千歳駐屯地

第7師団装備品(戦車等)研修、司令表敬、第1高射特科団長表敬及び対空戦闘指揮統制システム等の研修



◆役割・任務

第7師団は「陸上自衛隊最強の抑止力・対処力」として我が国周辺の脅威に対して道内の防衛・警備のみならず、他方面隊に戦略機動して防衛作戦を遂行。また、大規模災害対処や海外における国際平和協力活動任務なども遂行。

◆女性自衛官の活躍

自衛隊では女性自衛官の配置制限を解除して、多くの職種・職域で女性が活躍している。また、ワークライフバランスへの各種取り組みも行っているとのことで、子ども達を預かる環境があり、女性も働きやすくなっている。

(4)陸上自衛隊 北千歳駐屯地

装備品(88式地対艦誘導弾ミサイル)研修、第1特科団長表敬及び研修



◆第1特科団

- ・第1地対艦ミサイル連隊⇒88式地対艦誘導弾を装備し、洋上から侵攻してくる敵を撃破する部隊
- ・第1特科群⇒多連装ロケットシステムを装備し、地上から侵攻してくる敵を撃破する部隊

勝連分屯地に配備される予定の地対艦ミサイルは、洋上から侵攻してくるのを撃破するとのことで、移動出来るように車輻に積まれて最大6発搭載できる。海岸線での捜索・評定レーダ装置で識別した情報をもとに所要の計算をして、射撃命令が射撃統制装置を経由してそれぞれに展開した発射機に送られてミサイルが発射される。

(5)千歳市防災学習交流センター「そなえーる」
視察研修及び体験(まちづくり支援事業)



◆防災学習交流施設の目的

市民(自主防災組織)、ボランティア、防災関係機関が単独又は相互に連携し、防災学習や防災訓練等を実施することで、市民や防災関係機関の防災力を高めるとともに防災関係機関に対する理解を深めることを目的とする。

災害時には、災害対策拠点として使用する。



地震の様子をビデオ鑑賞して、パネルで災害や災害対策について学び、現実に国内で起きた地震体験(震度)と火災時の避難体験をすることができた。

(6)海上自衛隊 余市防備隊 視察研修(ミサイル艇くまたか)



余市防備隊が所属する大湊地方隊は、青森県以北の海域及びその沿岸を警備区としている。余市防備隊は、主に北海道西部の日本海を担当している。

(7)北広島市 市長表敬及び北海道大演習場に関する懇談

- ・北広島市に自衛隊施設はないものの、全国で2番目に大きな北海道大演習場(96km²)に隣接。(うるま市との比較; 87km²)
- ・北海道大演習場では、日米共同訓練、射撃訓練等様々な訓練を実施。
- ・沖縄の基地負担軽減にも関連する在沖の海兵隊が実施している訓練の一部は、北海道大演習場でも実施。
- ・市役所から10km離れたところに演習場はあるが、風向きによって音が聞こえることもある。たまに「うるさい」との意見が市役所に寄せられるが、自衛隊に対しての抗議活動はない。
- ・年間1億2千万円の交付金(補助金)がある。



(8)花の拠点「はなふる」

民生安定施設助成事業及びC経路研修（北広島市役所から厚真町役場に移動する間に、駐車場や車内等から概要の説明・現状の確認）



(9)厚真町長表敬

平成30年胆振東部地震における自衛隊の救援状況などを確認

◆北海道胆振東部地震(震度7)を通じた自衛隊の活躍、厚真町との連携の実情
平成30年9月6日～10月6日までの機関で、陸上自衛隊、航空自衛隊、海上自衛隊の延べ14,359人が関わった。



主要な道路が土砂崩れで通れなくて発災から約3時間後に陸上自衛隊の初動対処部隊(25名)が到着して、更に3時間後に本隊(780名)が到着して救出活動、道路啓開及び生活支援(給食・給水・入浴等)を展開実施。被害は約800億円で民間は試算されていない。

◆防災協定や自衛隊との防災訓練の現状

- ・平成26年8月5日に陸上自衛隊第7師団7特科連隊(東千歳)と締結。
- ・防災訓練は年に1回実施して図上訓練では連絡責任者の派遣し、実動訓練では救出救護、生活支援(装備品展示、炊き出し、給水、物資・人員輸送等)。
- ・如何に備えが大切かを感じさせられ、普段から顔の見える関係を意識して取り組む。
- ・PTSDの疑いがある方は17%いたが、アウトリーチなどを実施してケースマネジメントをしてきて、現在では7%くらいになっている。
- ・地域の防災力を上げるためのセミナーやフォーラムで各自治会をまわった。
- ・子ども達に対する防災教育をずっと続けている。

(10)航空自衛隊 千歳基地 視察研修及び救難隊研修

約2,500人が勤務して、空自機による緊急発進回数が東北よりも那覇の方が多いいことを知った。パラシュート降下訓練では、種類によって畳2畳分の広さに着陸でき、そうでなくても誤差は少ないとのことで安全性を感じた。



【北海道視察研修の所見】

うるま市での課題や今後の気になる点を自衛隊の多い北海道にて学ぶ機会になった。北海道民と沖縄県民の自衛隊についての捉え方の違いを感じた。

北海道では自衛隊員がいることで、地域でのイベントや災害対策等の自治体運営も円滑に進めているとのことで、北海道民と自衛隊員との連携の強さを感じた。

勝連分屯地に新たに地对艦ミサイルが配備されるために自衛隊部隊が増えることにおいては、「有事の時に攻められるのではないかと不安がある」との反対意見と「近隣国に攻められない為に抑止力が必要」との賛成意見に分かれている。

有事の時だけを考えるのではなく、普段の生活についても考えると北海道民のようにうるま市でも自衛隊と連携強化した自治体運営をしていく必要性を感じた。

自治体の長との意見交換では、自衛隊員が増えることで住民税等での歳入増に繋がること、またそこで生活するので経済効果も期待されることが理解できた。

今後のために本市に関わる自衛隊員や米軍人との意見交換も必要だと感じた。

行政視察報告書

令和 5 年10月6日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 國場 正剛

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	基地対策特別委員会 県外視察調査
2. 期 間	令和5年10月2日（月）～令和5年10月5日（木）
3. 視 察 先	(1)北海道千歳市 (2)北海道札幌市 (3)北海道北広島市 (4)北海道余市町 (5)北海道厚真町
4. 調査内容	基地から派生する諸問題を解決するため、自衛隊及び北海道防衛局の役割や防衛施設周辺の対策事業等を調査する。
5. 参 加 者	〔うるま市議会〕 議 長 比嘉 直人 〔基地対策特別委員会〕 委 員 長 藏根 武 副委員長 糸数 昌宗 委 員 池宮城 善伸 幸喜 勇 國場 正剛 高屋 優 天願 浩也 伊波 良明 伊波 洋 伊盛 サチ子 〔事務局〕 議事課長 金城 彰悟
6. 視察先 対応者	(1)北海道防衛局（局長、次長及び総務部長ほか数名） (2)千歳市（市長、副市長、総務文教常任委員ほか7名） (3)陸上自衛隊 東千歳駐屯地（司令及び第1高射特科団長ほか数名） (4)陸上自衛隊 北千歳駐屯地（第1特科団長ほか数名） (5)千歳市防災学習交流センター「そなえーる」（施設職員2名、北海道防衛局職員2名） (6)海上自衛隊 余市防備隊（司令ほか2名） (7)北広島市（市長及び議長ほか数名） (8)花の拠点「はなふる」及びC経路研修（北海道防衛局職員2名、樋口補佐官） (9)厚真町長表敬（町長ほか2名） (10)航空自衛隊 千歳基地（隊員数名）

7. 概要及び所見 ※写真など挿入可。

(1) 北海道防衛局（局長表敬及び研修）

- ・主な業務 ～広く防衛政策についての理解を得るための施策～
防衛白書の地元説明は、最新の安全保障環境や防衛省・自衛隊の政策等について地方公共団体に対し直接説明して理解を得る貴重な機会であることから、部隊等の協力を得ながら、局のしかるべき者から説明を実施。
- ・防衛問題セミナーについて
基本方針 防衛問題セミナーは、地方公共団体や地域住民に対し、広く防衛政策についての理解を得るため、道内各都市において、防衛省・自衛隊の施策、活動等をテーマに開催している。また、平成22年度より、商工会や青年会議所などの地域のオピニオンリーダー及び自治体職員を対象とした少人数規模のミニセミナー開催及び講師派遣を実施している。

(2) 千歳市（市長表敬及び基地等協議会関係者との懇談）

- ・騒音測定装置を独自に設置している。国の常時測定局がある。年間平均70～80dB自主規制時間を設けている。土・日自粛。
日米共同訓練の時は臨時局を設置して、市民にも情報提供している。
市民に配慮した飛行。スクランブル飛行に対しては苦情はない。
新規入居者からは時々あるが説明している。
自衛隊訓練について苦情はない。

(3) 陸上自衛隊 東千歳駐屯地（第7師団装備品(戦車等)研修、司令表敬、第1高射特科団長表敬及び対空戦闘指揮統制システム等の研修）

- ・第7師団は「陸上自衛隊最強の抑止力・対処力」として我が国周辺の脅威に対して道内の防衛・警備のみならず、他方面隊に戦略起動して防衛作戦を遂行している。また、大規模災害対処や海外における国際平和協力活動任務なども遂行している。
- ・主要装備品は戦車、装甲戦闘車、装甲人員輸送車、自走りゅう弾砲、自走高射機関砲などの多種多様な装甲車を主体に装備している。
- ・抑止力・対処力を高めるため、戦闘行動訓練、戦車等による射撃訓練、公道自走や船舶等を活用した戦略起動等、各種訓練に取り組んでいる。
- ・国際平和協力活動など、各種事態に一体的に対処できるよう、各種訓練を通じて各関係機関と緊密な連携体制を構築している。
- ・大規模地震、火山噴火、豪雨等の天災地変や大規模災害への災害派遣活動を行い、民生の安定を図っている。

(4) 陸上自衛隊 北千歳駐屯地（装備品(88式地对艦誘導弾ミサイル)研修、第1特科団長表敬及び研修）

- ・第1地对艦ミサイル連隊⇒第1特科団所属し、88式地对艦誘導弾を装備する部隊。洋上から侵攻してくる敵を撃破する部隊。
- ・第1特科文群⇒第1特科団に所属し、多連装ロケットシステムを装備する部隊。地上から侵攻してくる敵を撃破する部隊。

・第7師団⇒第71戦車連隊は陸上自衛隊唯一の機甲師団である第7師団（東千歳駐屯地）に所属し、10式戦車を装備する部隊。

(5)千歳市防災学習交流センター「そなえる」（視察研修及び体験(まちづくり支援事業))

・市民（自主防災組織）、ボランティア、防災関係機関が単独または相互に連携し、防災学習や防災訓練等を実施することで、市民や防災関係機関の防災力を高めるとともに、防災関係機関に対する理解を深めることを目的につくられた。

・災害時には災害対策の拠点として使用される事も目的とする。

・地震体験コーナーでは、震度1～7までの揺れを体験することが出来、東日本大震災や熊本地震などの実際起こった大地震の揺れを実際に体験した。

(6)海上自衛隊 余市防備隊（視察研修(ミサイル艇くまたか)）

・第1ミサイル艇隊所属艇はミサイル艇わかたか・ミサイル艇くまたかの2艇

視察当日は、ミサイル艇くまたかを視察。ウォータージェット推進装置（後方に高圧の水流を噴出する事で、推進力を得る。）の説明を受ける。

主要な兵装は62口径76ミリ速射砲×1 艦対艦ミサイルシステム×1 12.7ミリ重機関銃×2

(7)北広島市（市長表敬及び北海道大演習場に関する懇談）

・北広島市は広島県人の移民により開墾されたことから、様々な経緯を経て北広島市の名称となった。

・北広島市に自衛隊施設はないものの、全国で2番目に大きな北海道大演習場96㎢に隣接ちなみにうるま市は87㎢なのでその大きさがうかがえる。

北海道大演習場では、日米共同訓練、射撃訓練等様々な訓練が実施されている。

・沖縄の基地負担軽減にも関連する在沖の海兵隊が実施している訓練の一部は北海道大演習場でも実施されている。

・市長によると、特段騒音は気にならないこと、それに対する被害や、抗議行動もないとのこと。測定器は1台。

(8)花の拠点「はなふる」（民生安定施設助成事業）及びC経路研修（北広島市役所から厚真町役場に移動する間に、駐車場や車内等から概要の説明・現状の確認）

・「はなふる」のガーデンエリアは7つのガーデンで構成している。ガーデンエリア
1. えこりん村キッチンガーデン、2. グラベルガーデン、3. 暮らしを恵む庭、4. プレイグラウンド、5. 大きなカステラが焼けるお庭、6. ミチノモリ、7. 虹色の鳥

・えにわファミリーガーデン「りりあ」にはボーネルンドの遊具をしようした4つのエリアで構成している。1. アクティブエリア、2. ボールプールエリア、3. ロールプレイエリア、4. ベビーエリアなどが整備されている。

(9)厚真町長表敬（平成30年胆振東部地震における自衛隊の救援状況などを確認）

・元自衛隊員を職員採用後、5か月後に北海道胆振東部地震が発災。

自衛隊は本来なら1時間ほどで到着するが、道路陥没等の事情で迂回迂回を繰り返し3時間後に到着した。その後、救出活動、道路啓開及び生活支援（給食・給水・入浴等）を展開・実施。元自衛隊員を採用したことによって、行政と自衛隊のお互いの連携相手の顔が見えるが活動が取れたことは大きい。

・防災協定について

34自治会中8自治会が自主防災組織を持っている。締結内容は、災害に係る連絡体制の強化、情報の収集・整理・共有、救助活動のための地域の使用、応急的な生活救助等を定め人命救助活動及び生活救助活動に資するもの。防災訓練は、訓練の目的に応じ、町が主催する防災訓練等に参加。

・図上訓練：リエゾン（各関係機関から連絡責任者・連絡幹部）の派遣等を行っている。

(10)航空自衛隊 千歳基地（視察研修及び救難隊研修）

主要装備は・F-15 政府専用機 U-125(救難機) PAC3

パラシュート降下訓練も基地内で行っている。落下目標地点にはたたみ2畳ほどの目標地点にほぼ正確に落下することが可能とのこと。（パラシュートの種類、熟練度にもよる）

視察を終えて

自衛隊は陸・海・空ともに日本の平和を守っていること、日ごろから警戒監視態勢を維持し、訓練等によって自衛隊の能力を高めて有事に備えていること。また災害時には早期復興に尽力していること。さらには、日本が武力攻撃されたときに備えた態勢を整えていることで他国が日本を攻めることを思い止まらせるためにも自衛隊の存在価値は大きい。

7. 概要及び所見 ※写真など挿入可。

(1) 北海道防衛局について

北海道防衛局の報告によると、北海道は広大な土地を有し、防衛施設は約460平方キロメートルに及び、全国の自衛隊施設の約42%を占めています。その中でも陸上自衛隊の施設が96%を占め、約442平方キロメートルをカバーしています。駐留軍施設は18施設あり、約345平方キロメートルは自衛隊と共同で使用されています。米軍が単独で使用しているのは1施設にとどまります。

北海道防衛局の主な業務は、地方公共団体や地元住民に対して防衛政策について理解を深めるためのセミナーなどを開催することです。これまでに全道各地で46回のセミナーが実施されています。またキャンプハンセンを縦断する沖縄県道104号線を封鎖していた実弾射撃訓練やオスプレイの訓練は、矢臼別演習場などで分散・実施されたと報告を受けました。さらに安定的な防衛施設の運用を図るため、戦車道の道路改修工事や民生安定施設としての生涯学習センターの設立が助成されています。他にも、防災学習交流施設として「そなえーる」の建設や、公園として花の拠点「はなふる」の整備も行われています。一方で、防衛施設の建設工事の予算額は建物の老朽化更新を目的として年々上昇しているとのことでした。

(2) 千歳市について

千歳市基地等協議会関係者との懇談において、千歳市では自衛隊に対する苦情が少なく、自衛隊と自治体が協力し共存している様子がうかがえました。地域の祭りでは、JAL国際まつりでの救護や通信の支援、クロスカントリー時には豚汁の炊き出し支援など、自衛隊の方々が積極的に参加しています。冬場においては、スノーバスターズとして高齢者宅の除雪ボランティアも実施されていることが報告されました。また、有事の際に自衛隊員が留守となる家庭の支援についても言及があり、千歳市と自衛隊が協定を締結しており、お互いに支え合う形が確認されました。このような取り組みは、地域と自衛隊との協力関係を築く一環として意義深いものと言えます。

さらに興味深いことに、市議会議員23名中、19名が防衛議員連盟を設立しているとの報告もありました。これは、地元の政治家たちが防衛に関する議題に共通の関心を寄せ、協力体制を構築していることを表しています。地域社会と自衛隊との連携強化に向けた積極的な動きが見られ、これが地域全体の安全と安心を確保する上で重要な一翼を担っていることが伺えます。

(3) 陸上自衛隊 東千歳駐屯地について

東千歳駐屯地の視察では、第7師団は「陸上自衛隊最強の抑止力・対処力」として、日本周辺の脅威に対して単なる防衛や警備だけでなく、他の戦略的な活動も行いつつ、防衛作戦を展開していました。また大規模災害への対処や海外での国際平和協力活動も担当しており、その多岐にわたる活動に対しては深い敬意を表すべきだと感じました。

他方で東千歳駐屯地では女性自衛官も積極的に活躍しており、全隊員の約10%が女性隊員であるとのことでした。ワークライフバランスの観点からも様々な取り組みが行われており、現代の多様性に配慮した職場環境が整備されていることが見受けられました。さらに駐屯地は地域との交流を大切にし、創立記念行事や様々なイベント支援を通して、地域社会との共存を図っているとのことでした。これは、自衛隊が地域社会との協力関係を築きながら、地元住民との信頼関係を強化していることを示しています。

最後に「我らここに励みて国やすらかなり」という言葉は、国防の最前線で活動する

隊員たちの強い意志と奉仕精神を反映しており、その姿勢に対して敬意を表すとともに、地域社会との一体感を感じました。

(4) 陸上自衛隊 北千歳駐屯地について

北千歳駐屯地では、陸将補から北部方面隊の概要や陸上自衛隊の職種、特に高射特科部隊の主要装備品について詳細な説明を受けました。特に注目すべきは、統合防空ミサイル防衛における領域横断作戦能力であり、北部方面隊で様々な部署が連携して作戦を実現する強固な態勢について説明いただきました。

防空ミサイル防衛に関する機能が組織全体で協力し合い、一体となって構築されていることが強調され、また、88式地対艦誘導弾ミサイルなどの装備に触れることで、北千歳駐屯地がどれほどの戦略的な位置にあり、その拠点が地域の安全を守る上でどれほどの役割を果たしているか理解しました。

(5) 千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について

千歳市防災学習交流施設「そなえーる」は約4.3ヘクタールの広大な敷地にA、B、Cの3つのゾーンから構成されており、「学ぶ」、「体験する」、「備える」というテーマに基づき、災害に対する意識を高めることを目的としています。

地震の擬似体験や火事が発生した場合の煙避難の実践体験など、訪れた人々が直接体験



できるコーナーが用意されていました。また、「防災の森」と銘打たれたエリアでは、災害時の状況を想定した野外での生活や訓練が可能な施設が完備されていました。これにより、地域の住民たちが楽しみながらも実践的な形で防災について学ぶことのできる環境が見受けられました。

また施設全体が防災教育と交流を促進するための場となっており、防災に関する意識向上や地域社会の危機管理能力向上に寄与する重要な施設であることがうかがえました。

(6) 海上自衛隊 余市防備隊について

海自余市防備隊は、海上自衛隊で最も北に位置する艦艇基地であり、北海道西部の日本海を主な警備区域として活動されていました。この地域は太平洋、日本海、オホーツク海といった三つの大海に囲まれ、特に冬季においては過酷な気象条件が待ち受ける場所であるとうかがいました。

防備隊は陸上自衛隊と同様に市民との共存を大切にし、その実状が見られました。隊の所在地では、ミサイル艇「くまたか」が停泊している一方で、すぐ隣には市民の漁業関係者の船が停泊し、漁の準備などが行われている光景が見受けられました。これは、自衛隊と市民が協力し、共に利用しながら共存している様子でした。

また、隊員たちは昼夜を問わず領海を巡視し、近隣諸国であるロシアや中国からの侵犯を防ぐために活動しているとのことでした。この地域の艦艇基地が、私たち領海の安全を守るために果たす役割は深い敬意に値します。

(7) 北広島市について

北広島市の市長表敬および北海道大演習場に関する懇談については、北海道ボール

パークに強い印象を受けました。北海道ボールパークは、北海道日本ハムファイターズの新球場を含むエリアで、単なる野球観戦の場所だけでなく、ファンや地域住民が一体となって地域社会の活性化に寄与する共同創造の場となることを目指しているとの事でした。この取り組みが地域社会とスポーツを融合させ、地域全体の発展へ寄与する素晴らしい試みであると感じました。

うるま市においてハード整備を進める際にも、このような地域社会との一体化や共同創造のテーマを取り入れることが重要であると強く感じました。

(8) 花の拠点「はなふる」について

はなふる公園において、この公園は恵庭市と防衛予算を活用して整備され、市民の憩いの場として提供されています。具体的には、北大演習周辺公園設置助成事業として市との共同事業として進められていました。公園は緑豊かなエリアとして整備され、地域の住民たちがリラックスし交流を楽しむ場となっていました。



公園の維持管理には週に1回、時には2回という頻度で業者により芝刈りが行われており、民間業者に委託されているとのことでした。公園の緑地規模から察するに、相当な予算がかかると思いますが、地域の憩いの場としての価値を提供する為はその整備が進められているとうかがいました。

(9) 厚真町長表敬について

厚真町の町長表敬訪問では、平成30年の胆振東部地震における自衛隊の救援状況を詳しく伺いました。災害時の自衛隊の対応について、人命救助、道路開通、給水・給食、入浴支援、輸送支援など、陸海空の自衛隊が一体となり延べ14,359人にわたり、約1ヶ月にわたって救助支援を行ったことを伺いました。現在、うるま市は自衛隊と災害協定を締結しているものの、より密な災害訓練、情報交換、地域連携、交流などを通じて、さらなる連携が必要だと感じました。

(10) 航空自衛隊 千歳基地について

空自千歳基地の視察において、この施設は2026年で航空自衛隊千歳基地の設立100周年を迎える歴史ある拠点であり、現在は約2,500名の隊員が配置されています。夜間の飛行訓練が午後10時から午前7時まで中止されており、この対策により騒音被害はあまり発生していないと報告を受けました。また、隣接諸国の領空侵犯に対する対応として、千歳基地ではスクランブル発進が行われており、令和3年には200件、令和4年には150件が発生したと報告を受けました。比較的頻度が少ないものの、その継続的な活動の重要性を強調されていました。なお、これを沖縄県の数値と比較すると、千歳基地のスクランブル発進は少ないことが分かりました。

視察の中で、F15戦闘機などの装備品を実際に視察し、また海、山、空からの救助活動を担当するスペシャリストO氏51歳にお会いしました。O氏のような年齢でも現役で活躍していることに対して、日頃からの努力と訓練への敬意を表します。

総括)

うるま市においても自衛隊基地が存在する中、北海道自衛隊基地のように地域住民との共存について再考させられました。自衛隊基地と地域住民との円滑な共存は、地域の発展や安全確保において重要となります。一方で米軍基地との共存に関しても考えなければいけない課題です。本市では米軍による津堅島沖においてパラシュート降下訓練を実施しており、漁業関係者に被害を被る可能性があるとして問題視されています。安全性を確保いただき地域や漁業関係者に理解が得られる説明が常に求められます。

今回の研修を通じて学んだことを具体的な行動につなげる必要があります。例えば、市政の発展においては、自衛隊基地が地域にもたらす影響を考慮したまちづくりの計画が必要だと感じました。自衛隊員との共存においては、地域住民との協力を深めるために、地域イベントの積極的な開催や地域社会への奉仕活動や災害時の協力訓練を通じて相互の信頼を深め、安心感を醸成することが重要だと感じました。また、米軍との共存を考える上で、異文化交流イベントを開催し、言語や習慣の違いを尊重し、共通の価値観を築く努力が求められます。このような地道な努力が、地域全体の調和と発展に寄与するものと思われまます。道のりは長いですがお互いの信用をコツコツと積み重ね共存する社会を構築すれば、より良いうるま市を築けるでしょう。

行政視察報告書

令和 5 年10月11日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 天願 浩也

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	基地対策特別委員会 県外視察調査
2. 期 間	令和5年10月2日（月）～令和5年10月5日（木）
3. 視 察 先	(1)北海道千歳市 (2)北海道札幌市 (3)北海道北広島市 (4)北海道余市町 (5)北海道厚真町
4. 調査内容	基地から派生する諸問題を解決するため、自衛隊及び北海道防衛局の役割や防衛施設周辺の対策事業等を調査する。
5. 参加者	〔うるま市議会〕 議 長 比嘉 直人 〔基地対策特別委員会〕 委員 長 藏根 武 副委員 長 糸数 昌宗 委 員 池宮城 善伸 幸喜 勇 國場 正剛 高屋 優 天願 浩也 伊波 良明 伊波 洋 伊盛 サチ子 〔事務局〕 議事課長 金城 彰悟
6. 視察先 対応者	(1)北海道防衛局（局長、次長及び総務部長ほか数名） (2)千歳市（市長、副市長、総務文教常任委員ほか7名） (3)陸上自衛隊 東千歳駐屯地（司令及び第1高射特科団長ほか数名） (4)陸上自衛隊 北千歳駐屯地（第1特科団長ほか数名） (5)千歳市防災学習交流センター「そなえーる」（施設職員2名、北海道防衛局職員2名） (6)海上自衛隊 余市防備隊（司令ほか2名） (7)北広島市（市長及び議長ほか数名） (8)花の拠点「はなふる」及びC経路研修（北海道防衛局職員2名、樋口補佐官） (9)厚真町長表敬（町長ほか2名） (10)航空自衛隊 千歳基地（隊員数名）

(4)陸上自衛隊 北千歳駐屯地 (装備品(88式地对艦誘導弾ミサイル)研修、第1特科団長表敬及び研修)

・第1特科団

主要部隊は地对艦ミサイル連隊、多連装ロケット大隊、203mm自走榴弾砲大隊がある。

地域との関わりとして、イベントなどに率先して自衛隊員が参加や自衛隊主催の少年野球大会などを開催し、地域交流を深めていることがわかった。

千歳市には数多くのミサイル部隊などが配備されているが、地域住民からの反対の声は少ないことに驚き、地域交流の重要性を改めて知ることができました。

(5)千歳市防災学習交流センター「そなえーる」(視察研修及び体験(まちづくり支援事業))

主に市民の防災学習や訓練を行える施設であり、防災力を高めことや防災機関に関するものの理解を深めることが目的である。

総事業費は21億円で「まちづくり構想策定支援事業」という防衛予算を使って建てられた。

来場者数はコロナ前で年間4万人前後、14年目を迎える今年度には累計50万人にのぼる可能性があるという。

今回は地震体験をさせていただき、震度7まで体験することができました。また東日本大震災の地震と阪神淡路大震災の直下型地震を体験することができ、直下型の方が大きく激しく揺れを感じましたが、揺れの長さが1分以内と比較的短いのに対し、東日本大震災の揺れは、直下型と比べて激しさは劣るような気がするが、揺れる時間が3倍ほど長くなることがわかった。

(6)海上自衛隊 余市防備隊(視察研修(ミサイル艇くまたか))

・ミサイル艇わかたか・くまたかの2隻が配備されており、隊員は約80名が勤務しているとのこと、船員は1隻に20名程度乗船している。

・ミサイル艇の前任として魚雷艇が配備されていた。

・地域との関わりとしては、防災訓練を実施している。積極的に地域のイベントにも参加し、沖縄では考えられない学校等でも交流があるとのこと、地域の方々と共存するためには欠かせないことだと感じた。

(7)北広島市(市長表敬及び北海道大演習場に関する懇談)

北海道稲作の父と呼ばれる、中山久蔵が開拓した土地だと知った。また広島県人の移住が多く、市の名前の由来にもなった。

北広島市には自衛隊の訓練施設があり、毎年、約1億2,000万円の交付金が貰えている。

(8)花の拠点「はなふる」(民生安定施設助成事業)及びC経路研修(北広島市役所から厚真町役場に移動する間に、駐車場や車内等から概要の説明・現状の確認)

- ・防衛予算の民生安定施設助成事業により作られた。総事業費は6億77百万円、補助額は3億96百万円。
- ・北海道恵庭市民は庭園が盛ん。普段は観光地や農産物直売所、子供の遊び場として運用しており、災害の際には一時避難所として使用することを想定している。ガーデンフェスには佳子様が来場した実績もあって、観光地として大きく注目を浴びている。

(9)厚真町長表敬(平成30年胆振東部地震における自衛隊の救援状況などを確認)

- ・北海道胆振東部地震を通じた自衛隊の活躍、厚真町との連携実績は約1ヶ月間を通して行われた。自衛隊員はのべ14,359人が人命救助から物資供給や入浴・給食支援を行った。
- ・厚真町には34自治会があり、そのうちの8自治会が自主防災を整えている。
- ・自衛隊と防災協定を平成26年から締結しており、災害に係る連絡体制の強化、情報の収集・整理・共有、救助活動のための地域の使用、応急的な生活救助等を定める人命救助活動及び生活救助活動などを定められている。また、毎月行われる防災訓練には自衛隊も参加しており、図上訓練、実働訓練などを行っている。

(10)航空自衛隊 千歳基地(視察研修及び救難隊研修)

- ・2,500名の自衛隊員が在中
- ・騒音苦情は年間約100件前後、主に夜間飛行時のクレームが多い。内容は「何時まで訓練するのか?」確認の連絡が多いことがわかった。訓練時間は朝の7時から夜の22時までで、今までに違反したことはないそうです。
- ・救難ヘリの視察も行った。通常のヘリより航続時間が長い。乗員には救急救命士がいる。

今回の視察でとても大きく感じたことは、市民と自衛隊が共存して、互いに理解し合える素晴らしい環境が築き上げられていることがわかった。

本市においても自衛隊員の増員が計画されていますが、災害や有事の際は必要な存在であることは言うまでもない、自衛隊と共存し合える環境を整えたいと感じた。